

自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト



平成20年3月

(財) 日本交通安全教育普及協会

はじめに

交通安全教育の推進につきましては、皆様方には日ごろより熱心な諸活動を推進され、格別のご尽力をいただいておりますことに深く敬意を表します。

当協会は文部科学省、内閣府並びに警察庁の共管財団として交通安全教育の普及に関する各種の調査研究や事業などを行っている団体です。

さて、自転車についての交通安全指導は、学校をはじめ様々な関係機関・団体等によって進められ、啓発活動についてもそれぞれの地域で取り組まれ成果を挙げられています。しかし、全国的には自転車の安全な乗り方等については、子どもから大人まで多くの課題もあり事故も多発している現状があります。

こうした中、当協会では「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト」として小学生やその保護者を対象とした自転車に関するアンケート調査や参加・体験型の自転車交通安全事業を行い、その成果の普及を図ることを目的とした活動を展開することにしました。

この事業において、幼児や小学生に自転車の安全な乗り方を学ばせ、交通安全の意識の向上を高めると共に、地域が結束して事故根絶運動に結びつけ、これを広めることができれば、交通安全の効果的な推進に大きく寄与するものであると考えています。

今回の事業を進めるにあたり、大宮警察署、大成地区自治会連合会、大成地区青少年育成会、大成地区周辺の小学校、保育園、幼稚園、地区リーダー、県内の教職員など埼玉県の関係機関や団体の皆さまの多大なるご協力をいただき、「自転車交通安全教育推進委員会」を発足させ、企画・運営に努めてまいりました。

地域が一体となって幼児や小学生を対象とした自転車交通安全教育が実施されることにより、ネットワーク化が進み、地域住民における自転車運転の技能やマナー等も向上させ、安全意識を高め、ひいては、安全・安心の街づくりに包括的に貢献していくものと確信しています。何れはこの方法を県下全域に拡大し、全国のモデル事業となることを目的としています。

この報告書は「地域一体型小学生の自転車交通安全教育」に視点を当ててまとめたもので、本報告書が学校・各関係機関・団体・行政等における自転車交通安全教育の一層の充実、発展のためにご参考になれば誠に幸いと存じます。

最後に、報告書の作成に終始熱心にご尽力いただきました調査研究委員会の先生方に心から感謝を申し上げます。

平成 20 年 3 月

(財) 日本交通安全教育普及協会理事 西 則光

目 次

はじめに

1. 事業の概要

2. 事業の内容

- (1) 自転車交通安全教育推進委員会の設立
- (2) アンケートの実施と集計
- (3) 自転車交通安全教室の実施
- (4) 自転車交通安全教育指導者研修会の実施

3. 事業の考察と課題

- (1) 実施アンケートの考察と課題
- (2) 自転車交通安全教室（自転車点検）の考察と課題
- (3) 課題への今後の取組み
 - ・子供向け「自転車チェックリスト」の作成
 - ・子供向け「自転車ルール・マナー事柄集」の作成
 - ・保護者向け「自転車購入時の意識啓発パンフレット」作成
 - ・教師向け「自転車指導展開例」の作成
 - ・指導者向け「交通安全教室指導例」の作成
 - ・指導者向け「自転車指導マニュアル」の作成

4. 今後の事業展開について

5. 資料

「アンケート調査票」

1. 事業の概要

1. 事業の概要

◆事業の目的

近年、交通事故死者数や交通事故件数は減少傾向にあるものの、平成18年度中の全交通事故に占める自転車事故の割合は、事故件数で19.6%、死傷者数で15.9%と依然として高く、自転車をめぐる交通情勢は厳しい状況にある。

本事業では小学生に自転車の交通安全教育を推進すると同時に地域での指導者養成を図りながら、地域全体の自転車運転技能やマナーを向上させ、安全・安心の街づくりに包括的に貢献することを目的とする。

◆テーマ

地域を核とした小学生への自転車交通安全教育の展開と体制の確立

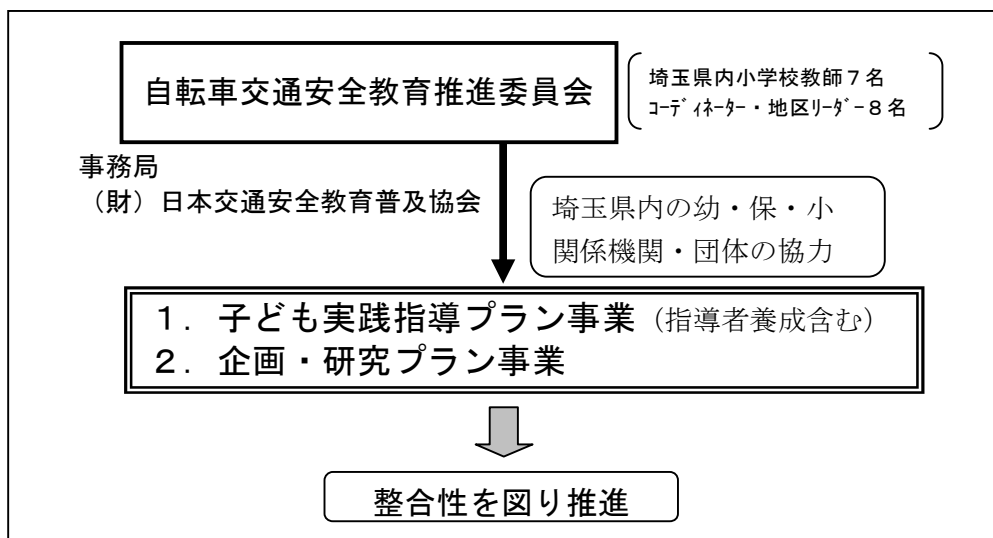
◆事業の背景

- ・自転車利用者が守る「ルール・マナー」態度が悪化（子供～大人）
- ・自転車事故が増加傾向（加害者：小学生 被害者：高齢歩行者）
- ・躰の一環とした小学生からの交通安全教育が重要

◆具体的目標

- ・地域を主体とした指導カリキュラムと体制の確立
- ・地域内での自転車事故削減と交通安全意識の向上

◆実施体制と事業



2. 事業の内容

2. 事業の内容

(1) 自転車交通安全教育推進委員会の設立

事業の実施にあたり、推進組織として「自転車交通安全教育推進委員会」を平成19年4月に組織した。事務局は（財）日本交通安全教育普及協会に置く。

◇目的：本委員会は「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト」の円滑且つ効果的な推進を図ることを目的とする

◇事業：①アンケート分析に基づく研究協議のための小委員会（調査研究委員会）開催
②幼児・児童対象「自転車交通安全教室」の実施
③地域の指導者養成

◇委員

※敬称略・順不動

1	猪狩一史	朝霞市立朝霞第五小学校 教諭	(調査研究委員)
2	伊藤正和	狭山市立富士見小学校 教諭	(調査研究委員)
3	井本和良	上尾市立大谷小学校 教諭	(調査研究委員)
4	勝 雄二	上尾市立中央小学校 教諭	(調査研究委員)
5	関根祐一	所沢市立和田小学校 教諭	(調査研究委員)
6	永嶋和実	さいたま市立河合小学校 教諭	(調査研究委員)
7	細内滋実	入間市立黒須小学校 教諭	(調査研究委員)
8	柴崎正司	地区コーディネーター	協会委嘱
9	岩崎てる子	地区リーダー	協会委嘱
10	岡安節子	地区リーダー	協会委嘱
11	桜井英二	地区リーダー	協会委嘱
12	佐藤紀彰	地区リーダー	協会委嘱
13	星野裕子	地区リーダー	協会委嘱
14	渡辺雅子	地区リーダー	協会委嘱
15	渡部奈々子	地区リーダー	協会委嘱

※地区コーディネーター・地区リーダー

交通安全活動に限らず、日ごろ地域のために積極的かつ継続的にボランティア活動をされている警察関係、自治会関係、青少年育成関係等の方々です。

◇事務局

1	西 則光	(財)日本交通安全教育普及協会 理事	
2	成迫俊美	(財)日本交通安全教育普及協会 主幹	
3	彦坂 誠	(財)日本交通安全教育普及協会 課長	
4	石川英司	(財)日本交通安全教育普及協会 課長	

(2) アンケートの実施

目 的 : 児 童 用 自 転 車 利 用 の 実 態 と 自 転 車 の 乗 り 方 に つ い て の 学 習 経 験
保 護 者 用 自 転 車 利 用 の 実 態 と 自 転 車 交 通 安 全 教 育 に つ い て の 意 識

実 施 日 : 平 成 1 9 年 2 月 ~ 3 月

対 象 者 : 埼 玉 県 内 小 学 校 (無 作 為 抽 出) 6 校 の 4 年 生 児 童 と 保 護 者

集 計 数 : 児 童 6 1 9 名 、 保 護 者 5 8 8 名

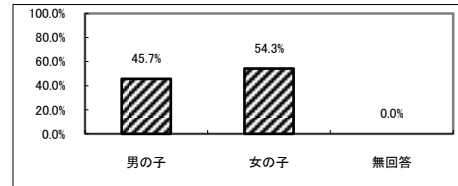
※ 「調査アンケート」は巻末資料参照

◆児童アンケート結果（4年生児童対象）

回答者数：619名

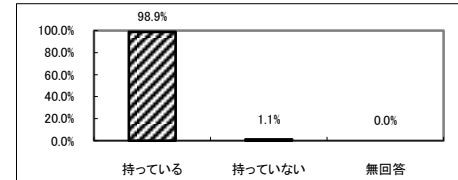
問1. あなたは

1. 男の子	283	45.7%
2. 女の子	336	54.3%
無回答	0	0.0%
合計	619	100.0%



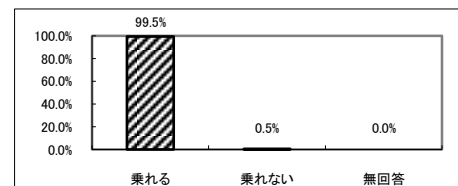
問2. あなたは自分の自転車を持っていますか

1. 持っている	612	98.9%
2. 持っていない	7	1.1%
無回答	0	0.0%
合計	619	100.0%



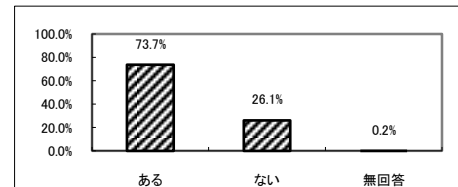
問2-1. あなたは自転車に乗れますか

1. 乗れる	609	99.5%
2. 乗れない	3	0.5%
無回答	0	0.0%
合計	612	100.0%



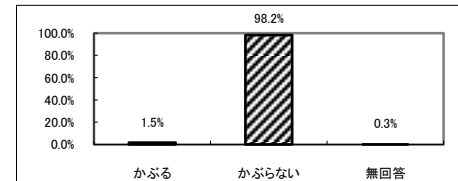
問3. あなたは自転車の手入れや点検をしたことがありますか

1. ある	449	73.7%
2. ない	159	26.1%
無回答	1	0.2%
合計	609	100.0%



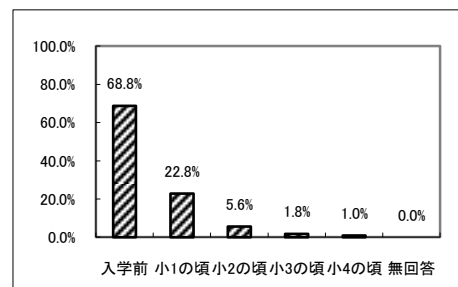
問4. あなたは自転車に乗るときにヘルメットをかぶりますか

1. かぶる	9	1.5%
2. かぶらない	598	98.2%
無回答	2	0.3%
合計	609	100.0%



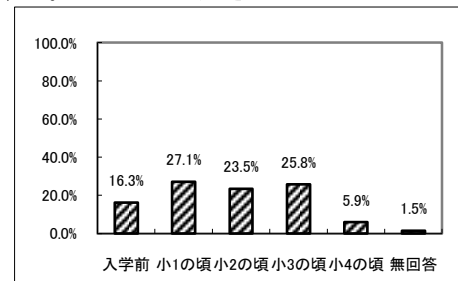
問5. あなたが自転車に乗れるようになったのはいつごろですか。1つえらんでください

1. 小学校入学前	419	68.8%
2. 小学校1年生のころ	139	22.8%
3. 小学校2年生のころ	34	5.6%
4. 小学校3年生のころ	11	1.8%
5. 小学校4年生	6	1.0%
無回答	0	0.0%
合計	609	100.0%



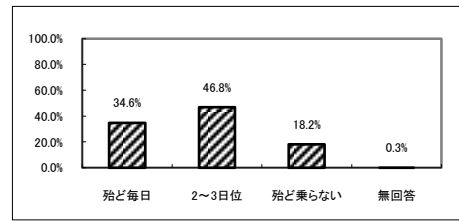
問6. あなたがはじめて、一人で自転車を使って出かけたのはいつごろですか。1つえらんでください

1. 小学校入学前	99	16.3%
2. 小学校1年生のころ	165	27.1%
3. 小学校2年生のころ	143	23.5%
4. 小学校3年生のころ	157	25.8%
5. 小学校4年生	36	5.9%
無回答	9	1.5%
合計	609	100.0%



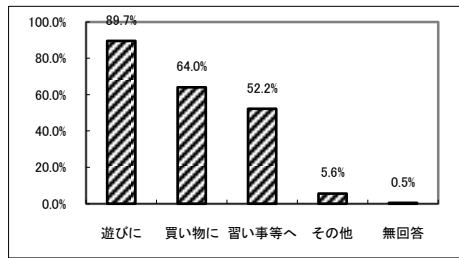
問7. あなたは1週間に何日くらい自転車に乗りますか。1つえらんでください。

1. ほとんど毎日乗る	211	34.6%
2. 2～3日くらい乗る	285	46.8%
3. ほとんど乗らない	111	18.2%
無回答	2	0.3%
合計	609	100.0%



問8. あなたが自転車に乗るのは、どのようなときですか。あてはまるものすべてをえらんでください(複数回答)

1. 遊びに行くとき	546	89.7%
2. 買い物に行くとき	390	64.0%
3. スポーツクラブの練習や習いごとへ行く時	318	52.2%
4. その他	34	5.6%
無回答	3	0.5%
合計	1291	

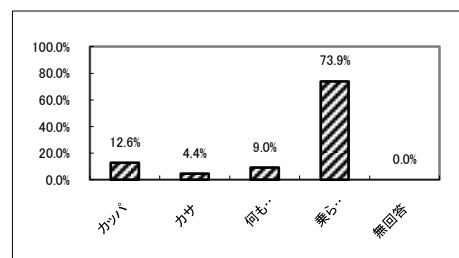


(4. その他) ※抜粋

・サイクリング(6)・駅に行く時(5)・病院に行く時(3)・散歩(4)・行事に行く時(2)

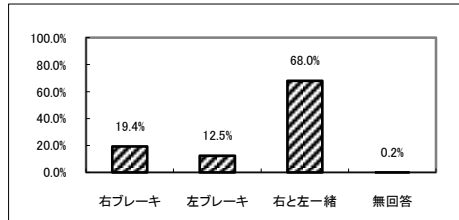
問9. 雨の日には、どのようにして自転車に乗りますか。1つえらんでください

1. カップを着て乗る	77	12.6%
2. カサをさして乗る	27	4.4%
3. 何も使わないで乗る	55	9.0%
4. 雨の日は乗らない	450	73.9%
無回答	0	0.0%
合計	609	100.0%



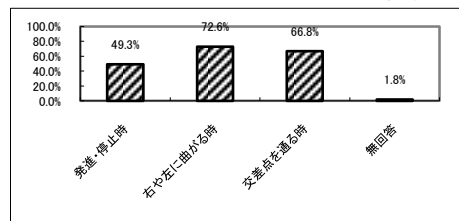
問10. ブレーキをかけるときはどちらを先につかいますか

1. 右ブレーキ(前のタイヤ)	118	19.4%
2. 左ブレーキ(後ろのタイヤ)	76	12.5%
3. 右と左いっしょ	414	68.0%
無回答	1	0.2%
合計	609	100.0%



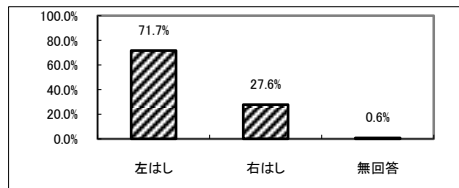
問11. あなたが自転車に乗っていて安全をたしかめるのはどんな時ですか。あてはまるものをえらんでください(複数回答)

1. 発進や停止するとき	300	49.3%
2. 右や左に曲がる時	442	72.6%
3. 交差点を通るとき	407	66.8%
無回答	11	1.8%
合計	1160	



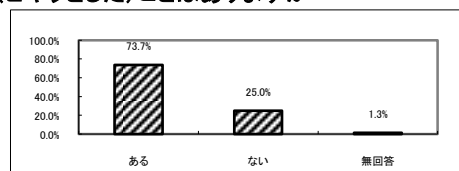
問12. あなたは自転車に乗るとき、道路のどこを走りますか。

1. 左はし	454	71.7%
2. 右はし	175	27.6%
無回答	4	0.6%
合計	633	100.0%



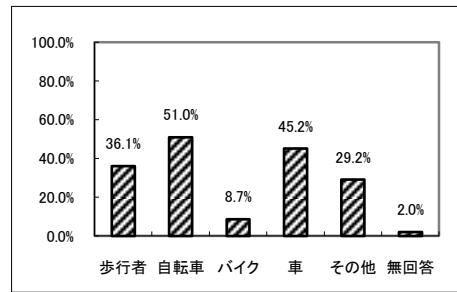
問13. あなたは今まで自転車に乗っていて、何かにぶつかりそうになった(ヒヤッとした)ことはありますか

1. ある	449	73.7%
2. ない	152	25.0%
無回答	8	1.3%
合計	609	100.0%



問13-1. ぶつかりそうになった(ヒヤッとした)相手は次の中でどれですか。あてはまるものすべてをえらんでください(複数回答)

1. 歩いている人	162	36.1%
2. 自転車	229	51.0%
3. バイク	39	8.7%
4. 車	203	45.2%
5. その他	131	29.2%
無回答	9	2.0%
合計	773	

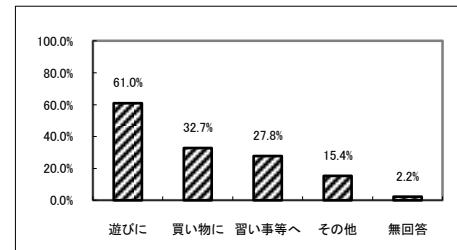


(5. その他)

- ・電柱 (67) ・壁 (33) ・木 (9) ・犬 (4) ・家 (4) ・家の塀・塀 (4) ・猫 (3) ・ガードレール (3)
- ・フェンス (2) ・花壇・柱・人 (2) ・建物 (2) ・ブロック (2) 他

問13-2. ぶつかりそうになった(ヒヤッとした)のは、あなたがどんなときでしたか。あてはまるものすべてをえらんでください(複数回答)

1. 遊びに行くとき	274	61.0%
2. 買い物に行くとき	147	32.7%
3. スポーツクラブの練習や習い事へ行くとき	125	27.8%
4. その他	69	15.4%
無回答	10	2.2%
合計	625	



(4. その他) ※抜粋

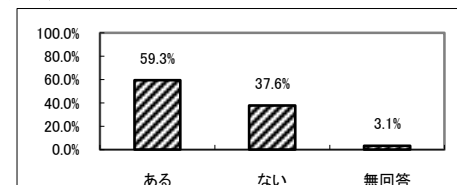
- ・家に帰る時 (14) ・遊んでいる時 (10) ・遊びの帰り (6) ・夜(夕方)帰り道 (4) ・サイクリング (2)

問13-3. ぶつかりそうになった(ヒヤッとした)場所はどんな所ですか (抜粋)

- ・曲り角 (84) ・交差点 (51) ・細く狭い道 (49) ・店の近く (34) ・家の近く (36) ・道路 (34) ・公園 (10)
- ・駐車場 (9) ・十字路 (8) ・学校の近く (8) ・歩道 (8) ・公園の近く (8) ・見通しの悪い場所 (7)
- ・五差路 (5) ・車がよく通る道 (5) ・友達の家(の)近く (4) ・バス(車)の出入口 (4)
- ・坂道 (4) ・トンネル(出口) (4) ・暗い場所 (3) ・車が沢山通る場所 (3) 通学路 (3)
- ・横断歩道 (4) ・下り坂 (3) ・見通しの良い道 (3) ・信号機のない所・路地 (3)
- ・大きい道路 (2) ・団地 (2) ・国道の近く (2) ・駐車場の近く (2) ・信号のない交差点 (2) ・駅前 (2)
- ・車の通りが少ない場所 (2) ・他人の家(の)近く (2)

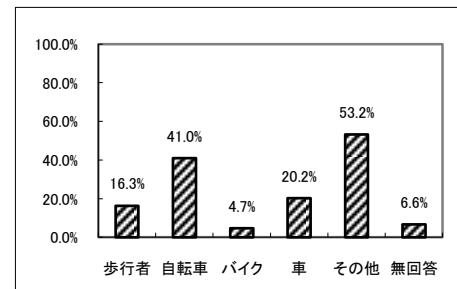
問14. あなたは今までに自転車に乗っていて、何かにぶつかったことはありますか

1. ある	361	59.3%
2. ない	229	37.6%
無回答	19	3.1%
合計	609	100.0%



問14-1. ぶつかった相手は次の中でどれですか。あてはまるものすべてをえらんでください
※比率は回答数361名をもとに算出

1. 歩いている人	59	16.3%
2. 自転車	148	41.0%
3. バイク	17	4.7%
4. 車	73	20.2%
5. その他	192	53.2%
無回答	24	6.6%
合計	513	

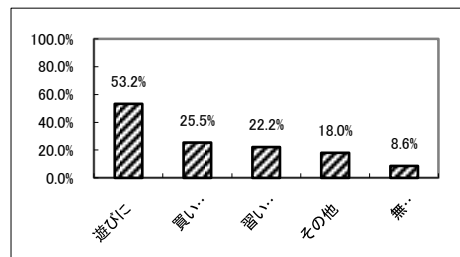


(5. その他) ※抜粋

- ・電柱 (83) ・塀 (28) ・壁 (31) ・木 (9) ・ガードレール (6) ・家 (4) ・看板 (4) ・犬や猫 (3) ・花壇 (3)
- ・建物・草 (2) ・ブロック (2) ・標識 (2) ・車止め (2) ・自動販売機・コーン (2) ・他人の家 (2)

問14-2. ぶつかったのは、あなたがどんなときでしたか。あてはまるものすべてをえらんでください
 ※比率は回答数361名をもとに算出

1. 遊びに行くとき	192	53.2%
2. 買い物に行くとき	92	25.5%
3. スポーツクラブの練習や習いごとへ行くとき	80	22.2%
4. その他	65	18.0%
無回答	31	8.6%
合計	460	



(4.その他) ※抜粋

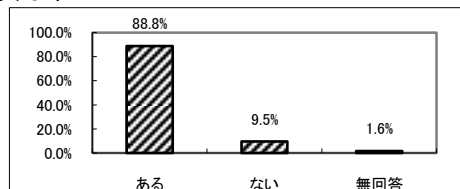
- ・遊んでいる時 (16) ・帰り道 (10) ・家への帰り道 (7) ・自転車の練習をしている時 (5) ・散歩中 (5)

問14-3. ぶつかった場所はどんな所ですか (抜粋)

- ・家の近く(周り)(41) ・ 狭い道(36) ・ 曲り角(30) ・ 道路(23) ・ 交差点(22) ・ 公園前(14) ・ 店の近く(13)
- ・坂道(12) ・ 歩道(10) ・ 公園(9) ・ 駐車場(8) ・ 駐輪場(7) ・ 横断歩道(6) ・ 見通しの悪い所(5) ・ 電柱がある所(4)

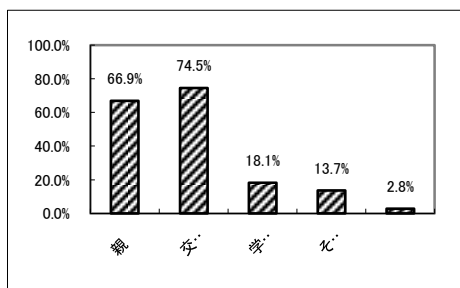
問15. あなたは今まで、道路での自転車の乗り方を教えてもらったことがありますか

1. ある	541	88.8%
2. ない	58	9.5%
無回答	10	1.6%
合計	609	100.0%



問15-1. だれに教えてもらいましたか。あてはまるものすべてをえらんでください
 ※比率は回答数541名をもとに算出

1. 親	362	66.9%
2. 交通しどういん	403	74.5%
3. 学校の先生	98	18.1%
4. その他	74	13.7%
無回答	15	2.8%
合計	952	



(4.その他) ※抜粋

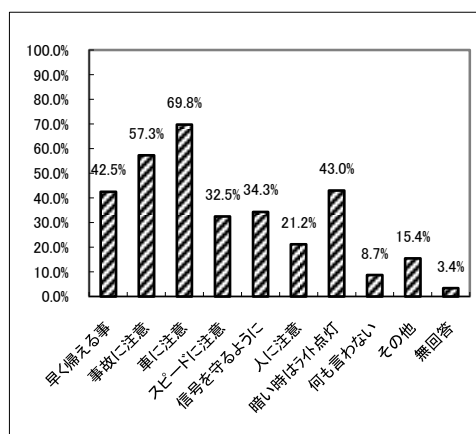
- ・警察 (46) ・ 祖父母 (12) ・ 友達 (4) 兄弟 (3)

問15-2. どんなことを教えてもらいましたか

- ・点検の仕方(100) ・安全確認(99) ・左側通行(64) ・道路(交差点、横断歩道他)の渡り方(46) ・ブレーキのかけ方(41)
- ・暗い時はライトをつける(38) ・一時停止(38) ・交通ルールとマナー (31) ・曲り方(27)
- ・横断歩道は自転車を降りて渡る(23) ・止まり方(21) ・こぎ方(19) ・スピードを出さない(19) ・信号を守る(15)
- ・飛び出さない(12) ・左から降りる(11) ・バランスの取り方(11) ・車に気を付ける(10) ・前を見る(8)
- ・標識について(7) ・標識について(7) ・標識について(7) ・発進の仕方(5) ・自転車の乗り降り(4)

問16. あなたが自転車で出かけるとき、家の人にはいつもどんなことを言われますか。あてはまるものすべてをえらんでください
 ※比率は回答数609名をもとに算出

1. 早く帰ってきなさい	259	42.5%
2. 事に気をつけて	349	57.3%
3. 車に気をつけて	425	69.8%
4. スピードを出さないように	198	32.5%
5. しん号を守るように	209	34.3%
6. 人にぶつからないように	129	21.2%
7. 暗くなったらライトをつけるように	262	43.0%
8. 何も言わない	53	8.7%
9. その他	94	15.4%
無回答	21	3.4%
合計	1999	



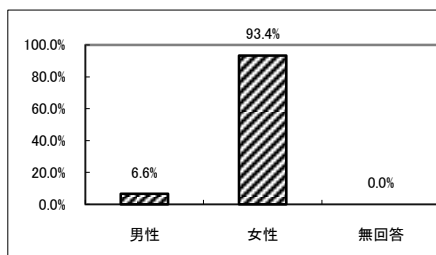
(9.その他) ※抜粋

- ・行ってらっしゃい (27) ・ 時間までに帰るように (7) ・ 気を付けて行ってらっしゃい (6)
- ・暗くなったら帰りなさい (2)

◆保護者アンケート結果 (回答者数 558名)

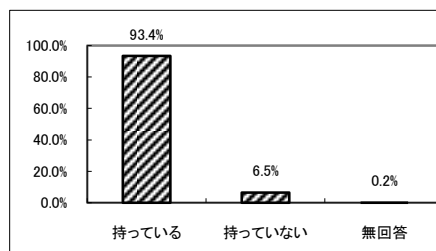
問1. あなたは

1. 男性	37	6.6%
2. 女性	521	93.4%
無回答	0	0.0%
合計	558	100.0%



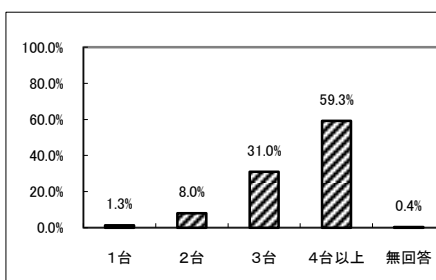
問2. あなたは自分が乗る自転車を持っていますか

1. 持っている	521	93.4%
2. 持っていない	36	6.5%
無回答	1	0.2%
合計	558	100.0%



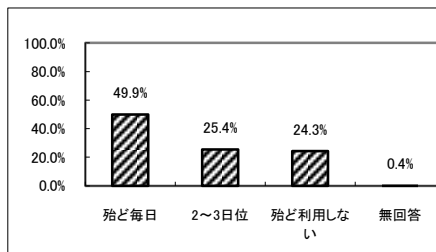
問2-1. 家にある自転車は何台ですか。

1. 1台	7	1.3%
2. 2台	42	8.0%
3. 3台	162	31.0%
4. 4台以上	310	59.3%
無回答	2	0.4%
合計	523	100.0%



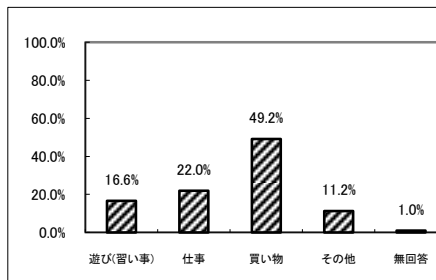
問2-2. あなたは1週間に何日くらい自転車を利用していますか。

1. ほとんど毎日利用	261	49.9%
2. 2～3日くらい利用	133	25.4%
3. ほとんど利用しない	127	24.3%
無回答	2	0.4%
合計	523	100.0%



問2-3. あなたはどんな目的で自転車を乗用していますか(複数回答可)

1. 遊び(習い事)に行くとき	138	16.6%
2. 仕事に行くとき	182	22.0%
3. 買い物に行くとき	408	49.2%
4. その他	93	11.2%
無回答	8	1.0%
合計	829	100.0%

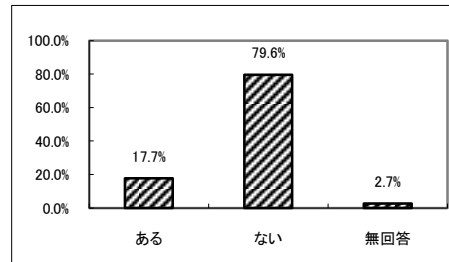


(4. その他)

- ・学校の行事当に行く(29)・子供の送迎(21)・近所への配り物(用事)(3)・通院(3)・気分転換(2)
- ・子供の習い事の送迎(2)・運動の為(2)・目的地に駐車場が無い時(2)・駅へ行く(2)
- ・普段は歩くが急いでいる時・子供の散歩や用事など・PTAの活動中・幼稚園の送迎・近くの友人宅・子供と遊ぶ時
- ・幼稚園・何処へ行くのも自転車・子供の友人宅への送迎・夜の外出・地区の集会・ゴミ捨て・学童保育への迎え

問3. あなたは自転車に乗っていて、今まで事故にあったことがありますか。

1. ある	99	17.7%
2. ない	444	79.6%
無回答	15	2.7%
合計	558	100.0%



(問3で「1. ある」と答えた方)

問3-1. 時期

- ・高校生の頃(17)・最近(14)・小学生の頃(12)・中学生の頃(11)・5年位前(9)・20歳の頃(7)
- ・3年前(7)・10年位前(6)・1年位前(5)・社会人(4)・36歳の頃(2)・大学生の頃(2)
- ・8年位前・7年位前・1年4ヶ月前・2年位前・数年前

問3-2. 場所

- ・信号機の無い交差点(見通しの悪い)(25)・信号のある交差点(13)・交差点(10)・道路(9)・歩道(7)
- ・見通しの良い道(7)・車の出入口(5)・信号機の無い場所(4)・坂道(2)・街灯が無い路(2)
- ・横断歩道の無い所・下り坂で少しカーブになっている場所(2)・陸橋下の交差点等(2)
- ・見通しの良い路地・ゆるいカーブの道・橋上の狭い歩道・道路に停止している車の脇・川沿いの道路・橋
- ・自転車歩行者専用道路から歩道へ出る所・信号のある横断歩道・見通しの悪い曲り角・横断歩道・住宅街
- ・ガードレールの無い道路・2号線・信号のない横断歩道 他

問3-3. 相手

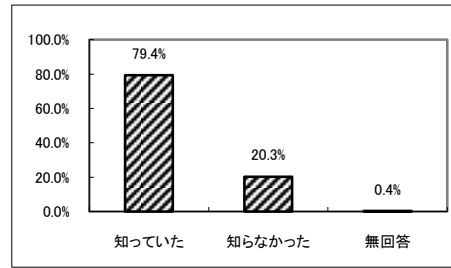
- ・交差点を左折(右折)して来た車(19)・細道から出て来た車(12)・駐車場等へ出入りする車(9)
- ・車(7)・バイク(6)・直進して来た車(6)・交差路から直進して来た車(4)・子供・対向車(4)
- ・飛び出して来た自転車(3)・自転車(3)・相手なし(2)・突然開いた車のドア(2)・停車していた車(2)
- ・後方から来た車(2)
- ・右折して来た自転車・丁字路から出て来た車・傘を差した自転車・一時停止線からはみ出した車・発進車両
- ・トラック・歩行者・タクシー・後方からの自転車・車道に出ようとしていた車・バックで出ようとしていた車 他

問3-4. 原因

- ・相手の前方不注意(31)・相手の一時不停止(16)・相手の不注意(10)・スピードの出し過ぎ(8)
- ・自転車の安全不確認(6)・互いの前方不注意(5)・相手の飛び出し(4)・自転車の飛び出し(3)
- ・一時不停止(3)・自分の右側走行・自分の無理な横断(3)・見通しが悪かった(雨等)(3)
- ・相手の安全不確認(3)・強引な左折(2)・自分の前方不注意(2)
- ・乗り慣れない競技用マウンテンバイクの為・相手の並進走行・二人乗り・相手の無灯火・脇見・虫が目に入った・不明 他

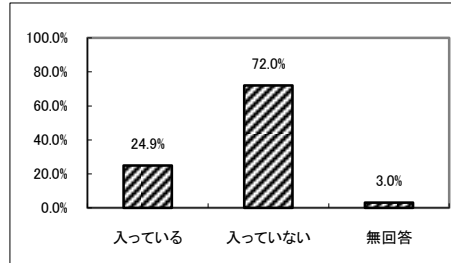
問4. あなたは、自転車が自動車と同じ車両であることを知っていましたか

1. 知っていた	443	79.4%
2. 知らなかった	113	20.3%
無回答	2	0.4%
合計	558	100.0%



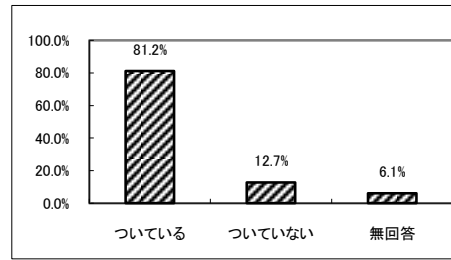
問5. あなたは、自転車の保険に加入していますか

1. 入っている	139	24.9%
2. 入っていない	402	72.0%
無回答	17	3.0%
合計	558	100.0%



問6. あなたの自転車には反射材がついていますか

1. ついている	453	81.2%
2. ついていない	71	12.7%
無回答	34	6.1%
合計	558	100.0%

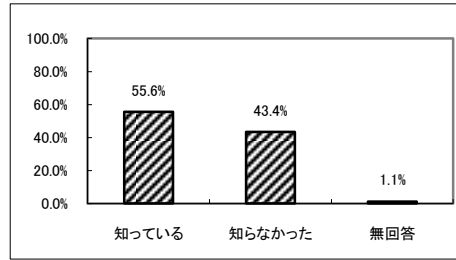


問7. あなたが自転車に乗る時、日ごろどんなことに気をつけていますか 具体的にご記入ください

- ・交差点(曲り角、横断歩道)での一時停止など安全確認 (146) ・車 (104) ・歩行者 (85) ・スピードを出さない (70)
- ・安全確認をする (53) ・暗くなったら点灯 (46) ・信号の無い交差点(道路)での安全確認 (39) ・左側通行 (37)
- ・自転車の点検 (22) ・脇道からの飛び出し(人、車) (19) ・信号を守る (14) ・自転車 (12) ・道路の端を走る (9)
- ・青信号でも安全確認をする (8) ・路面の状況確認 (8) ・交通法規を守る (8) ・並走しない (7) ・歩行者優先 (7)
- ・車の運転者の目線で注意 (7) ・飛び出さない (6) ・狭い道での走行 (6) ・ひたたくりに注意 (5) ・安全運転する (5)
- ・車道を通る時は車に気を付ける (5) ・運転者とのアイコンタクト (4) ・危ない時は降りる (4) ・子供 (4) ・子供 (4)
- ・車の運転時と同じ安全確認 (3) ・高齢者 (3) ・特に気にしている事は無い (3) ・前を見る (3) ・歩道を走る (3)
- ・ブレーキをかける準備 (2) ・車は信用できない (2) ・周囲の状況 (2) ・手に物を持たない (2) ・雨の日は乗らない (2)
- ・譲り合う気持ちでマナーを守って乗る (2) ・慌てない (2) ・車道から離れて信号待ちする (2) ・発進時の安全確認 (2)
- ・駐車場の出入口 (2) ・車や人が少ない道を通る (2) ・横断歩道では降りて渡る (2) ・予測運転する (2) ・服装等 (2)
- ・急停止をしない・砂利道・斜め横断をしない・バイクにも気を付ける・車の死角・車の間を通り抜けない・人ごみでの走行
- ・見通しの悪い所ではベルを鳴らす・踏み切りを守る・暗い時間帯、交通量の多い時間帯に気を付ける・幼児同乗時の転倒注意
- ・危ない場所は通らない・片手運転はしない・横断歩道を渡る・歩道を走らない・信号のある所で渡る・無灯火の自転車
- ・出会い頭の事故に気を付ける 他

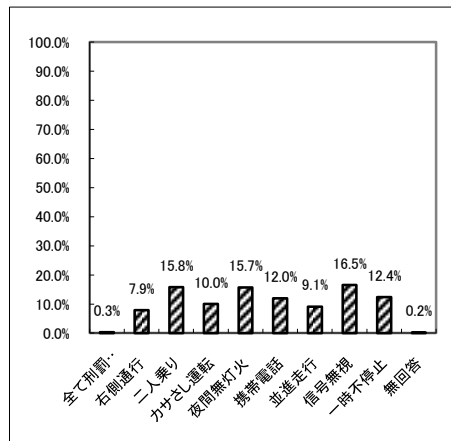
問8. 自転車が歩道を走行できるのは、下記標識がある場所のみであることを知っていましたか

1. 知っている	310	55.6%
2. 知らなかった	242	43.4%
無回答	6	1.1%
合計	558	100.0%



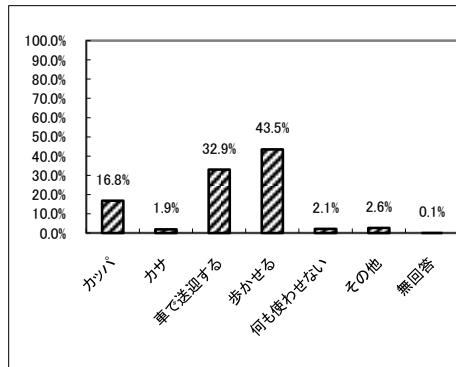
問9. 次の中で自転車が刑罰の対象(道路交通法等)になると思うもの全てを選んでください(複数回答)

1. 全て刑罰の対象にならない	10	0.3%
2. 右側通行	248	7.9%
3. 二人乗り	498	15.8%
4. カサさし運転	315	10.0%
5. 夜間の無灯火	493	15.7%
6. 携帯電話をしながら走る	377	12.0%
7. 並進走行(2台並んで走る)	286	9.1%
8. 赤信号の無視	519	16.5%
9. 一時不停止	389	12.4%
無回答	7	0.2%
合計	3142	100.0%



問10. 雨天時についてお聞きます。通常、お子さんが自転車で外出する時はどのようにしていますか(複数回答)

1. カップを着用させる	159	16.8%
2. カサを使わせる	18	1.9%
3. 車で送迎する	312	32.9%
4. 歩かせる	412	43.5%
5. 何も使わせないで乗らせる	20	2.1%
6. その他	25	2.6%
無回答	1	0.1%
合計	947	100.0%

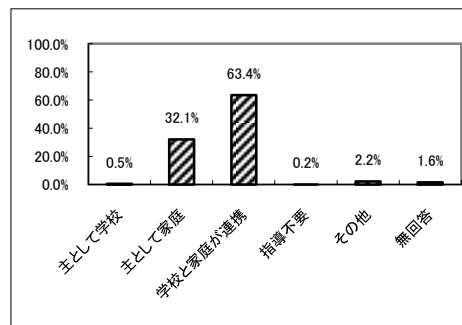


(6. その他)

・乗らせない (13) ・外出をひかえる (2) ・遠距離はバス、電車・帽子をかぶる 他

問11. お子さんへの自転車指導についてお聞きます。自転車指導は主として誰がすべきだと思いますか。

1. 主として学校がすべき	3	0.5%
2. 主として家庭がすべき	179	32.1%
3. 学校と家庭が連携してすべき	354	63.4%
4. 指導する程のことはない(する必要はない)	1	0.2%
5. その他	12	2.2%
無回答	9	1.6%
合計	558	100.0%



(5. その他)

- ・学校、家庭、地域、警察も連携した方がよい (3) ・学校、警官等専門知識人 (2) ・小学校入学前は家庭、入学後は学校と家庭の連携

問12. お子さんへの自転車指導において、日ごろからあなたが話している(教えている)ことがありましたらご記入ください。

- ・道路を渡る時や交差点(曲り角)では一時停止と安全確認する事 (176) ・スピードを出さない (139) ・車に気を付ける (133)
- ・安全確認(一時停止、左右確認) (114) ・暗くなったら点灯 (70) ・左側通行 (55) ・飛び出さない (51)
- ・歩行者(老人や小さい子など)に気を付ける(歩行者優先) (45) ・信号を守る (42) ・注意力を身につける・並走しない (39)
- ・信号の無い道路(交差点)では、一時停止で安全確認して渡る (36) ・青信号でも気を付ける (33)
- ・信号のある所を通る (13) ・横断歩道を渡る (12) ・自転車を点検する (12) ・道の端を走る (11) ・手放運転はしない (10)
- ・ブレーキの使い方 (9) ・脇道からの飛び出しに注意する(人、車) (9) ・二人乗りをしない (8) ・競争をしない (8)
- ・横断歩道は降りて押して渡る (8) ・話しながら乗らない (7) ・無茶な乗り方はしない (7) ・立ちこぎをしない (7)
- ・危ない時は降りる (7) ・無理な追い越し(運転)はしない (7) ・暗くなる前に帰宅する (6) ・交通ルールを守る (6)
- ・混んだ場所等では降りて押す (6) ・便利だが危険が伴うものである (6) ・雨の日は乗らない (5) ・慌てない (5)
- ・停める時の注意 (5) ・交通量の多い道路では特に気を付ける (5) ・右左折車の運転手の目を見るようにすること (4)
- ・遠出をしない (4) ・手に物を持たない (3) ・目立つ服の着用 (3) ・余裕を持って乗る (3) ・目と耳で確認する (3)
- ・バイクに気を付ける (3) ・信号を待つ時に車道からなるべく下がって待つ (3) ・暗くなったら乗らない (3)
- ・ジグザグ運転しない (3) ・大人と一緒に自転車で乗る (2) ・歩道を走る (2) ・いつでも自分のペースで乗る (2)
- ・自分の身は自分で守る (2) ・運転者とのアイコンタクト (2) ・夜間は反射材を着ける (2) ・事故について話す (2)
- ・車の運転者の目線で注意する (2) ・他の自転車との車間距離に注意する (2) ・子供でも事故をおこすと罪になる (2)
- ・なるべく乗らない (2) ・道路標識の意味を説明する (2) ・道路の段差に気を付ける (2)
- ・駐車場前は一度停止し確認する・信号の無い道でも気を付ける・駐停車両に近付かない・進路変更時には必ず後方確認
- ・油断した時に事故は起き、命を無くせば全てが終わってしまう・遊びの道具として乗ってはいけない・バスやトラックに並ばない
- ・上手な運転とはスピードが速く出せることではなく、安全に止まれること・慌てて乗らない・他の人の自転車には乗らない
- ・夕方以降は運転者からは見えにくいので注意する・見通しが悪い場所ではベルを鳴らす・事故の時の対応(親への連絡など)
- ・自分が気を付けていても事故は起こる・転んでしまう時も回りを巻き込まない様に気を付ける・前カゴに重い物を入れない
- ・モラルの無い乗り方を反面教師にする・急に進路変更をしない・滑りやすい場所では注意する・車の間を通り抜けない
- ・坂道等の止まりにくい所では注意する・カーブでは減速する・カゴの荷物が落ちないようにする・無灯火自転車に気を付ける
- ・右、左折する時に大回りしない・むやみにベルを鳴らさない 他

問13. お子さんへの自転車指導についてご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

- ・家でも指導するが学校等での指導を継続して実施して欲しい(年に1～3回開催) (24)
- ・事故や事故に遭った人の体験談をビデオなどで指導して欲しい (12)
- ・家庭でも学校でも繰り返し指導することが大切・交通ルールについて指導して欲しい (9)
- ・マナーが悪い中高生を指導して欲しい(スピードを出し過ぎ、携帯のメール打ち、並走など) (8)

- ・警察による専門的な安全教育の機会を増やして欲しい（7）
- ・年に数回、定期的に指導会を実施して欲しい(実技指導会を増やして欲しい)（7）
- ・交通事故の恐怖、自転車でも時には人の命を奪う事もあるというを教え注意を促して欲しい（6）
- ・自転車の運転免許書を発行が良いと思う（4）
- ・学年に応じた指導を一年に一度は必ず行って欲しい・交通法規を安全教室で教えて欲しい（3）
- ・道路標識の知識 ・35年くらい前に黒須小学校で行っていた自転車の点検制度などをすると良い
- ・車の教習所のように法令と基礎。道路を走る上での注意事項を教えてほしい。専門家の指導
- ・とにかくスピードを出さず、ゆっくりと安全に乗ってもらいたい ・思いやる心を持って自転車に乗るという事
- ・時々、交通安全教室で指導していただいているのでこれからも続けて欲しい
- ・急な飛び出しが怖いので気を付けさせていきたい ・昔は学校で合格シールがあった
- ・狭い道路を車がスピードを出して走っていて危険なので何とかして欲しい
- ・親子で自転車に乗る機会を持ち見本となるように努めている・毎年指導会を開いて下さい
- ・多くを語るより、大人たちの乗り方マナーが一番の指導だと思う。・スピードを出さない指導
- ・高学年は自転車に乗る事も多くなるので自転車指導回数を増やして欲しい
- ・安心できる所でも危険があるという事故例を教えて欲しい ・自転車の刑罰、規則正しい乗り方
- ・4年生になれば声を掛ける程度の指導が良い ・低学年から乗り方を学ぶ機会があれば良い
- ・1年生くらいの小さな子が一人で交通量の多い所を自転車に乗っているのを見かけるが、何年生から一人で出掛けられるという目安の指導を徹底して欲しい
- ・家で教えきれないのでどんな注意点があるか教えて欲しい
- ・ゆっくり走る事と飛び出しをしない事を指導して欲しい・必ず点灯するように指導して欲しい
- ・通い慣れている道はスピードの出し過ぎや一時停止などの注意を怠る事がよくあるので注意するよう指導して欲しい
- ・TV、CMで色々な危険なシーンを流すとよいと思う。交通安全用バーチャルゲームを作成し遊園地等、子供が遊びに来る所にアトラクションとしておいてもらうとよいと思う
- ・知らない子供でも危ない乗り方をしていたら注意して欲しい ・人の命の大切さを教えて欲しい
- ・毎年、自転車指導が実施されているが我が子は交通事故に遭った。回数を増やして欲しい
- ・道路でスピード競争したり、大勢で道幅いっぱいに広がって乗るのを注意して欲しい
- ・ヘルメット着用を義務づけたい・標識の勉強をするような安全講習会がもっとあると良い
- ・家庭でも常日頃から自転車の乗り方について指導していきたい
- ・自転車が歩道を走る時のマナー等を指導して欲しい ・道路状況に応じた乗り方を教えて欲しい
- ・毎年4年生で自転車指導があるが校庭ではなく、本当の道路で少人数での指導をお願いしたい
- ・専門的な事は家庭では教えられないので、具体的な道路交通について指導して欲しい
- ・親も道交法に触れる事等、正しく理解していないので親子で教わる機会が欲しい
- ・自転車指導も大切だが安全な道路にして欲しい・友達同士で走行する時の注意を促して欲しい
- ・細い道に自転車優先ラインのようなのを整備して欲しい ・子供だけの時は注意力が散漫になるので指導して欲しい
- ・無灯火の自転車が子供に限らず多いがとても危険だ・毎学期、一度は交通安全朝礼を実施を希望
- ・車を運転していて子供の自転車の飛び出しが多く指導して欲しい
- ・自転車は玩具ではなく、車両で、常に交通事故と隣り合わせであることを認識させたい
- ・自転車は時として危険な乗り物でもある事を知ってもらいたい ・一時停止も大事だがライトの点灯もしっかり指導して欲しい
- ・友達数人が集まると競争になってしまうので各家庭で指導して欲しい ・自転車指導教室のような取り組みがあると良い
- ・子供達と一緒に親にも安全教室などの参加を呼び掛け、指導して欲しい
- ・私が小学生の頃は全員が自転車を学校に乗って行き皆が安全教室をしました。今もこのような機会があり、インパクトのある講習を受けられるとまた違うのではないのでしょうか。
- ・自転車は便利だが命取りになる乗り物でもあることを家庭、学校、地域の皆で協力して指導できれば良い
- ・自転車の交通事故はどのような場所が多いか等の小冊子を配布すれば学校や家庭で話す機会ができ、一層の指導ができる
- ・学校は学年によって自転車に乗って良い範囲を家の地区内や学区内としていて、それを守ろうとしているので、学校と家庭の両方で注意していくと子供も聞くようになると思う
- ・親も学校の自転車安全指導の冊子を見て勉強になる。
- ・車からは車道の自転車はとても危ないし、歩行者からは歩道の自転車が危ない。子供にどう教えて良いのか分からない
- ・自転車の刑罰について親も子も知らない事ばかりなので教育の場が欲しい。中学生以上の子や大人にも教えるべき
- ・子供達が集まると道の真ん中に自転車を止めて遊んだりしている事がある。その都度注意するが車や歩行者の邪魔にならない様にマナーを教えるのも大切だと思う

(3) 自転車交通安全教室の実施

さいたま市内の幼稚園、保育園、小学校の園児・児童を対象に自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成する自転車交通安全教室を計5回実施。指導者の養成を図るため地区リーダー8名も参加。

①さいたま市立大成保育園

- 期 日 : 平成19年5月29日(火) 午前10時45分～12時
会 場 : さいたま市立大成保育園「講堂」
参加者 : 大成保育園園児 30名
指導者 : 交通指導員、地区リーダー(補助)
内 容 : ・パネルシアター
・自転車の発進、停止
・信号機の意味



②さいたま市立大成幼稚園

- 期 日 : 平成19年6月20日(水) 午前10時45分～12時
会 場 : さいたま市立大成幼稚園「講堂」
参加者 : 大成幼稚園園児 100名
指導者 : 交通指導員、地区リーダー(補助)
内 容 : ・人形劇
・自転車の発進、停止
・信号機の意味



③さいたま市立大成小学校

- 期 日 : 平成19年8月8日(水) 午前9時30分～11時30分
会 場 : さいたま市立大成小学校「グラウンド」
参加者 : 大成小学校 1年生～3年生94名、保護者30名
指導者 : 交通指導員、大宮警察署、日本交通安全教育普及協会、地区リーダー(補助)
内 容 :
 - ・点検、乗車姿勢、ヘルメットの着用方法
 - ・基本走行(信号交差点、信号のない交差点、駐車車両の側方走行)
 - ・総合走行



④さいたま市立大成小学校

- 期 日 : 平成19年8月9日(木) 午前9時30分～11時30分
会 場 : さいたま市立大成小学校「グラウンド」
参加者 : 大成小学校 4年生～6年生34名、保護者10名
指導者 : 交通指導員、大宮警察署、日本交通安全教育普及協会、地区リーダー(補助)
内 容 :
 - ・点検、乗車姿勢、ヘルメットの着用方法
 - ・基本走行(信号交差点、信号のない交差点、駐車車両の側方走行)
 - ・総合走行



⑤さいたま市立芝川小学校

期 日 : 平成19年10月20日(土) 午後1時30分～3時
会 場 : さいたま市立芝川小学校「校舎前」
参加者 : 芝川小学校 児童・保護者 約100名
指導者 : 自転車整備士(ブリヂストンサイクル㈱)、日本交通安全教育普及協会
内 容 : 参加者が持参した自転車の点検指導



(4) 自転車交通安全教育指導者研修会の実施

さいたま市内の小学校教員および地区リーダーを対象に、児童への自転車に関する交通安全指導力の充実と資質の向上を図るため実施。

期 日 : 平成19年8月23日(木) 午前9時～12時30分
会 場 : 浦和中央自動車教習所
参加者 : 24名
指導者 : 浦和中央自動車教習所、日本交通安全教育普及協会
内 容 : ・演習「危険予測学習」
・実験「巻き込み事故再現」
・実技 ①「信号機のある交差点」 ②「信号機のない交差点」
③「駐車車両の側方走行」 ④「二人乗り」
⑤「傘差し運転」 ⑥「停止距離」



3. 事業の考察と課題

3. 事業の考察と課題

(1) 実施アンケートの考察と課題

◆児童のアンケートから

日常生活における自転車の活用度

4年生段階の子どもの約80%が日常的に自転車を利用している。小学校入学前から69%の子どもが既に乗れるようになっていた。非常に高い割合である。また一人で自転車の乗って出かけるようになった子どものうち、小学校入学前から乗っている子どもが16%、小学校1・2年生で乗り始めた子どもが50%と高い割合を占める。交通安全教室での自転車の正しい乗り方をどの学年から導入すべきか、再考が必要な結果といえる。

また、ヘルメットの着用については、ほぼかぶっていないという現状が数字として表れた。校区単位で、学校・保護者・地域が連携して推進していかないと改善できない大きな課題といえる。

ヒヤリ体験・事故体験

4年生段階で、全体の約74%の子どもがヒヤリ体験をもち、約60%の子どもが何かにつかかってしまった経験をもつ。非常に高い割合である。残念ながら、自転車に関するさまざまな内容が指導されているにもかかわらず事故に遭う子どもが多い。知識として得た事が実際の生活の場で現実的にはなかなか活かされていないことが表れている。

ヒヤリ体験・事故体験の状況から

事故の原因として、発進・停止時、右左折時、交差点進入時の安全確認ができていないことや(約30%)、交通ルールが守られていないことが多いが、その他、ぶつかった相手が人や車ではなく、動かない物(壁・電柱など)にぶつかった子どもが多いことから、運転技能の未熟さによる操作ミスやスピードの出し過ぎ、ブレーキ操作の誤りなどが考えられる。運転技術をしっかりと身に付けられる、具体的・体験的な学習の充実が必要である。

自転車についての知識・理解・日常の乗り方

走行区分、標識、危険な乗り方、危険な場所、自転車のしくみ等、自転車に関する基礎的な知識が身に付いていない。また、自転車の発進・停止、交差点での一時停止、交差点での右左折、自転車点検など、習慣化を図る必要がある事柄についても身に付

いていないことが明らかになった結果といえる。教えるべきことをしっかりと教えていかなければならない。系統的にくり返し指導を行い、習慣化を図る必要がある。

学習経験

残念ながら10%近い子どもが、学習経験が「ない」と答えている。誰に教えてもらったかでは、複数回答ではあるが「親」が38%、「学校の先生」にいたっては10%という低さである。学校・家庭双方で自転車に関する安全指導の重要性への意識を高め、指導としつけの一貫性をもたせていく必要がある。

一方、誰に教えてもらったかで、交通指導員をあげる子どもは42%にのぼる。交通指導員による交通安全教室が強く印象に残っていることがうかがわれる。交通指導員等を招いての交通安全教室が果たす役割は大きく、保護者参加型の体験的・実践的交通安全教室を実施していくなどの工夫により、一層の効果が期待できる。

また、見方を変えると、先述の、学習経験が「ない」の10%、誰に教えてもらったかの「親」が38%、「学校の先生」10%という結果については、4年生段階であることから、考えにくい数値である。ということは、指導はしているが、印象として残っていないということが考えられる。これは重く受け止めるべきことであり、指導方法の在り方を再検討しなくてはならない。一方的に教え込むだけでなく、自ら学びとっていくような、知識・技能の獲得とともに実践意欲・態度を高められる交通安全指導を行っていかなければならない。

◆保護者のアンケートから

日常生活における自転車の活用度

家に4台以上の自転車を所有している家庭が約60%、また毎日利用している保護者が約50%を占めており、自転車は生活に欠かせない手頃な乗り物となっている。

事故体験の状況から

事故経験は約18%。主として小学校期から高校期が多く、事故の状況としては見通しが悪く信号機のない交差点で右左折してきた車の前方不注意による交通事故となっている。

自転車についての知識・理解

保護者の20%が自転車は車両であることを知らなかった。知っているが約80%

にもかかわらず、「赤信号の無視」や「夜間の無灯火」などの交通法規については認識が薄い。「二人乗り」や「傘差し運転」なども含め、“自動車では違反だが、自転車ならば違反にならない”という意識があると思われる。

子どもへの自転車指導

子どもへの自転車指導については学校と家庭の連携指導が63%と高い割合を占めている。同様に「家庭でも指導するが学校での指導も継続実施して欲しい」という意見・要望が数多く記述されている。

「専門的な安全教育の機会を増やして欲しい」、「親子で学習する機会が欲しい」という要望や前述の交通法規の認識状況をふまえると保護者として知っておいて欲しいルール、実践して欲しいマナー取り組みも必要である。

実施アンケート上、「自転車は道路のどちら側を走るか」の設問で72%が左側と回答している。知識として自転車の右側通行は違反であるを知っているが、実際には右側を通行してしまう。また、「自転車乗車中に何かにぶつかりそうになったか」または「何かにぶつかったか」の設問では、経験有りがそれぞれ74%、59%と高い割合となっている。本人に過失がないケースもあるとは考えられるが、「自転車に乗る時は運転に集中し、周囲に気をつける」と学習しても、ヒヤリとした体験やハッとした体験をしなければ意識を継続していく事は困難であろう。

このように、『右側通行をしても事故にあわない』という経験や『運転に集中していても事故にあわない』という経験を積み重ねることで『事故にあってしまうかもしれない』という意識が希薄となり、次第にルールを自分の都合のいいように解釈して運用してしまう傾向がでてくるとされる。

また、「ブレーキのかけ方」の設問でも「左右一緒」が68%と高い割合を占め、危険な操作である「右ブレーキ」が約2割と回答している。通常、「減速・停止は左ブレーキ、次ぎに右ブレーキも併用」という基本操作を行う。最初に「右ブレーキ」という誤った知識では転倒や事故の危険性も出てくる。ここでも減速・停止時は漠然と『ブレーキをかける』から『安全にブレーキをかける』という学習が必要である。

以上のことから、自転車のルールやマナーを知っていてもそれを実際の交通行動で実践し、習慣化する事は難しい。「知っているつもりでも、実は知らなかった」「知っているけれども、そこまでは考えていなかった」という段階までの『気付かせる学習、考えさせる学習』が今後は必要であり課題でもある。

(2) 自転車交通安全教室（自転車点検）の考察と課題

自転車交通安全教室（自転車点検）では関係各幼稚園・保育園・小学校をはじめ関係機関・団体より多大なるご理解とご協力をいただき実施することができた。

経験豊富な交通指導員の指導を中心に、幼稚園・保育園では前半で「パネルシアター」

や「人形劇」、後半では実際に自転車に触れさせながら「ヘルメットのかぶり方、自転車の発進・停止、信号機の意味」などを学習し、保護者も参加した小学校では初日が1～3年生、2日目が4～6年生のグループに分けたケース・スタディによる参加・体験・実践型の交通安全教室を実施した。

参加された各校（園）の園児・児童達は自転車の点検や安全な乗り方など説明する指導者の話に熱心に耳を傾け、自転車の実技では正しい交差点の渡り方や駐車車両の側方走行などを明るく元気に体験し、全体を通して本事業を盛り上げてくれた。

また児童・保護者各自が持ち込んだ自転車の点検では、自転車整備士から「安全に楽しく自転車に乗るためにはタイヤの空気圧やブレーキのきき具合、サドルの調整方法など、日ごろ各自で点検する必要であり、転倒や事故の防止にもつながる」という指導を受けた。

初めて自分の自転車を点検した子供達の中には、タイヤの空気が充分に入っていない事に驚きながら、楽しくにぎやかに学習することができた。

（3）課題への今後の取組み

◆学校における交通安全教育の在り方

- ①保護者参加型の体験的・実践的交通安全教室を実施していくなど学校・保護者・地域の連携が不可欠である。
- ②低学年段階から自転車の正しい乗り方の学習を導入していくことが望ましい。
- ③運転技能をしっかりと身に付けられる具体的・体験的な学習の充実が必要である。
- ④知識・技能の獲得とともに実践意欲・態度を高める交通安全指導が必要である。

◆地域で行う交通安全教育（交通安全教室）の在り方

- ①活動場所は学校を母体とすることが望ましい。
- ②保護者の交通安全に対する啓発を奨励していくことが望ましい。
- ③実際の道路を活用しての安全教室を行うことが望ましい。



取
組
み
の
柱

- 1 家庭の意識を高める取組
- 2 教師の意識を高める取組
- 3 教師がすぐに使える指導例を作成・発信する取組
- 4 児童の知識・技能・意識を高める取組
- 5 交通安全教室の工夫例を発信する取組

取組みに向けての教材作成

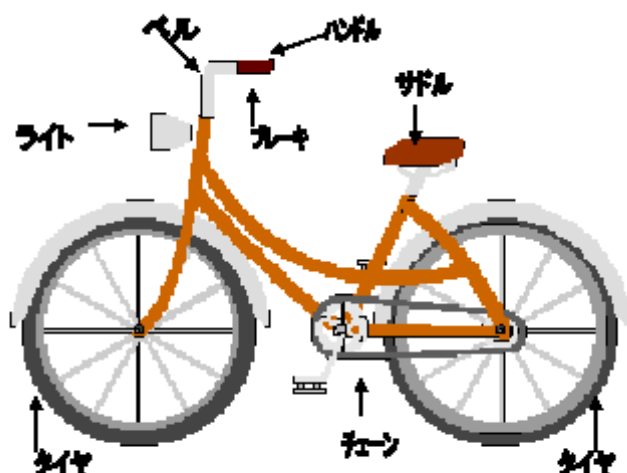
- ①子供向け「自転車チェックリスト」
- ②子供向け「自転車ルール・マナー事柄集」
- ③保護者向け「自転車購入時の意識啓発パンフレット」
- ④教師向け「自転車指導展開例」
- ⑤指導者向け「交通安全教室指導例」
- ⑥指導者向け「自転車指導マニュアル」

じてんしゃ 自転車を チェックしよう

※異なったら

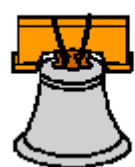


にシールをはりましょう。



ブレーキ

は、ききますか？



ベル

は、鳴りますか？



サドル

が高くないですか？

ライト

は、つきますか？



ハンドル

が、ぐらぐらしていませんか？

チェーン

は、ゆるんでないですか？



自転車の乗り方 Q & A

Q、1

自転車にまたがるときは、自転車の右側から？左側から？

A、1

自転車の左側から乗り降りしましょう。

自転車は道路の左側を通ることになっています。自動車は左側通行ですから、自転車のすぐ右側は自動車が走っています。自転車にまたがるときに、右からまたがり右側に転んだら、たいへん危険です。



Q、2

自転車が走行するのは道路の右側？左側？

A、2

自転車は軽車両です。**車道の左側**を通りましょう。

ただし、自転車道があるところは自転車道を通ります。また、小学生までの子どもや自転車の通行が許可されている歩道は、通ってもよいことになっています。その場合は、車道よりをゆっくりと走行し、歩行者がいるときは歩行者優先です。



Q、3

自転車の通行を許可されている歩道で歩行者がじやまな時、ベルを鳴らして自転車に乗ったまま通過してもいい？

A、3

自転車が通行を許可されている歩道は、乗ったまま通っても

よいことになっています。ただし、車道よりをゆっくりと走り、歩行者がいるときは**歩行者優先**です。歩行者で通路がふさがれている場合は、一度自転車から降りて、押して横を通りましょう。

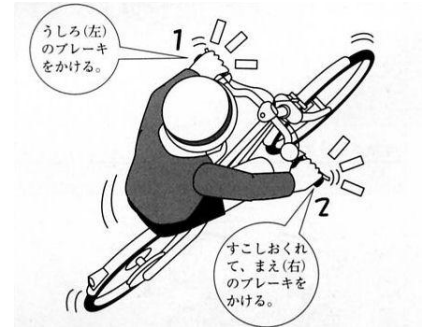
Q、4

自転車のブレーキを掛けるときは、右手から？左手から？

A、4

自転車を徐行させたり止めたりするときには、必ず左（後ろ）のブレーキから徐々にかけます。少しおくれて右（前）のブレーキで自転車をしっかり止めます。右手の前ブレーキだけや急ブレーキは転んでしまうことがあります。

『後ろでゆっくり、前でしっかり』で止まりましょう。

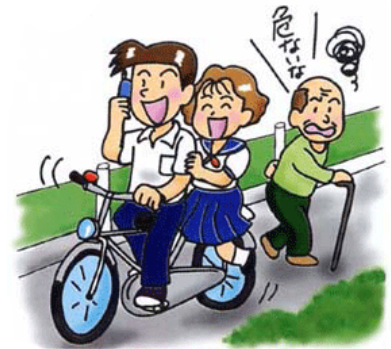


Q、5

交通事故で、自転車も相手を傷つけることがある？

A、5

自転車で事故を起こして、物をこわしたり、人にけがをさせたりして加害者になった例はたくさんあります。中には、歩行者を死亡させてしまった例もあります。



Q、6

運転に慣れていれば、二人乗りやカサさし運転、ケイタイを使いながら運転をしてもいい？

A、6

二人乗りや片手での運転は、自分だけではなく周囲の人にも迷惑を掛けます。走行中のバランスが悪くなりますし、飛び出しなどがあつたときの急な操作ができなくなります。さらに、カサさし運転をする雨の日は、道路も滑りやすくなっています。

また、**法律でも禁止**されています。

どんなに慣れていても**絶対**にしてはいけません。

(二人乗り)

道路交通法第55条第1項 自転車の運転者は、乗車席以外の場所に乗車させて運転してはならない

道路交通法第55条第2項 都道府県公安委員会が定める乗車制限に違反して乗車させ、自転車を運転してはならない

[保護者向け自転車購入時の意識啓発パンフレット]

自転車事故から子供を守るために

近年、埼玉県下では、自転車による死亡事故が全国でも最も多く発生しており、極めて深刻な問題となっています。このような事故にお子さんが巻き込まれないため、お子さんを自転車に乗せるときには、下のことに十分留意してください。

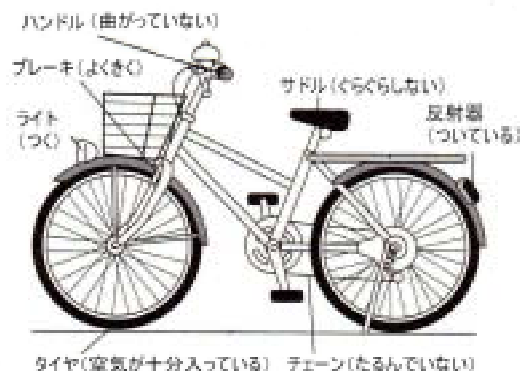
【体にあった自転車】

安全に走るためには体にあった自転車を選ぶことが大切です。



【自転車の安全点検】

乗る前に点検をしましょう。故障が見つかったら、自転車整備店へ修理・整備に出しましょう。



【スピードの出し過ぎは事故のもと】



スピードの出し過ぎに注意しましょう。

子供は自転車に乗っているとき、まわりの様子を見ることができません。スピードを出しているときはなおさらです。

【知っておきたい標識】

標識に従って走りましょう。

【一時停止】



自転車も車です。一度止まって、左右の安全をしっかりと確かめましょう。

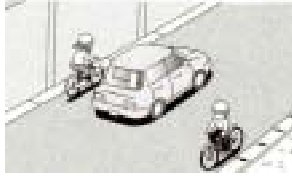
【自転車通行可】



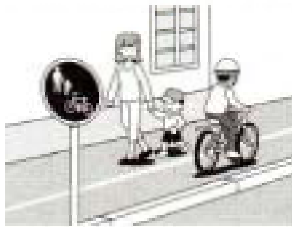
自転車と歩行者が通れますが、歩行者が優先です。

交差点では、信号や一時停止の標識がなくても必ず一時停止をしましょう。

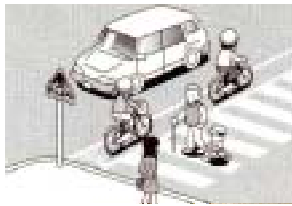
【自転車走る場所】



左側寄り通行
自転車は、道路の左側を通行します。



自転車通行可の標識のある歩道
この標識がある歩道では、自転車は歩道の車道側を通行することができる。



自転車横断帯
自転車横断帯のある横断歩道では、自転車横断帯を、通合は、自転車を押して横断歩道を渡ります。

道交法が改正されました

児童・幼児が自転車を運転する場合、歩道を通行することができるようになりました。

おうちの方といっしょに
たしかめよう！

わかったかな？

人は右、自転車は左を走ります。

スピードを出さず、ゆっくりと！

やってみよう！

まっすぐ走ろう。

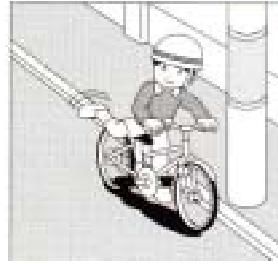
ブレーキは左ハンドル 右ハンドル

自転車の乗り降りは左から。

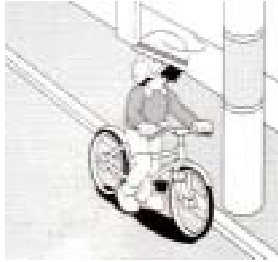
信号が青になっても右左を見よう。



【基本的な乗り方】



乗るときも降りるときも「左」から万ーバランスを崩して倒れても、左側から乗降すれば車道側（右側）に倒れる危険性が軽減できます。



乗るときには左右だけでなく後ろを確認しましょう。

【ヘルメットの着用】

道交法が改正されました

子どもが自転車に乗るときに、保護者はお子さんにヘルメットをかぶらせるように努めなければなりません。

ヘルメットをかぶって
行きなさい



はい！

【購入時・点検時】

保険・点検・品質については販売店等にお尋ね下さい。



自転車は「車両」です。交通ルールを守って安全に乗りましょう。

【教師向け自転車指導展開例】

【高学年題材例 指導のねらい】

- 命の大切さ・相手や周囲の人の思いに触れ、常に危険を読みながら自転車を運転しようとする意欲を高められるようにする。
- 潜在的な危険の怖さがわかり、危険を読みながら、安全な自転車の運転ができるようにする。

【 展 開 】

【 活動構成のポイント 】

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	資 料
問題把握	1. 事前調査の結果を知る。 2. 問題場面を知る。	・事前調査の結果から、意識のちがいがい・危険の感じ方のちがいに目を向けられるようにする。 ・場面についての補説を行う。	調査結果表 写真資料
場面	○○さんたちは、どのような事故にあってしまうでしょう		
	3. 問題場面に潜む危険を考える。	・3分程度の時間とし、短時間で危険ポイントを見つけていくようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《人的要因》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○○さん 脇見運転</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>△△さん 歩道の中を運転 前方不注意 歩道内走行</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">右側通行 話しながらの運転 かた手運転 急いでいる心境</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《環境要因》</p> <p>カーブ際の交差点である 右側の視界が悪い カーブミラーがない 歩道ブロックが高い</p> </div> </div>	ワークシート
4. 起きる可能性のある事故を考える。	・グループ活動を有効に展開する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・バランスを崩しての転倒 ・カーブの先からの車との接触 ・カーブの先からの自転車との接触 ・ブロックに接触しての転倒 ・右の道からの歩行者や自転車との接触 など</p> </div>		
仮説設定	どうすれば事故を防ぐことができるでしょうか。		
	5. 事故を防ぐ行動を考える。	・グループ活動を有効に展開する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>急がないで運転する（早めの行動）左側通行を守る 片手運転をしない 前をしっかり確認する 見えないところに注意する</p> </div>	ワークシート
検証	6. 安全行動の大切さを確かめる。	・自分達で考えた方法的確かさを確かめる。 ・事故にあってしまう確率を提示するとともに、事故にあったら家族・友達にどんな思いをするか想像できるようにする。	
適用	7. 正しい運転のめあてを定める。	・具体的な行動目標を立てる。 ・事後の計画について伝える。	

○自分達の問題として取り組む意欲を喚起する重要な段階。学級の全体的な傾向や課題をうきぱりにできる事前調査が必要。
○事故経験をもつ児童への配慮が必要。

○事前調査から掴んだ課題を投影して具体場面を設定する（危険予測トレーニングの導入）。場面設定が最大のポイントになる。
○児童の生活基盤である校区の中から場面設定を行う。これにより、児童は自らの生活経験と重ね合わせながら具体的な思考ができる。
○その場所で事故に遭ってしまった児童の有無、近隣の方のプライバシーなどの配慮が必要。
○発達段階に応じた場面設定が重要。

高学年：加害ケースも増えている。他者尊重を高める段階。
ルール違反 集団心理や急いでいる気持ち 環境要因など 多様な要因を含む場面設定（左図）

中学生年：交通ルールの大切さをしっかり理解し運転技能を高める段階。
自分と環境とのかかわりを主眼に場面設定（例 下図）



低学年：標識・表示を理解して、交通ルールをしっかりと守って運転する段階。
標識・表示、カーブミラーなどを配置わかりやすい場面設定（例 下図）



○発達段階や学習経験に応じた展開が必要。
特に低学年（1～3年生）では、潜在危険の発見と事故予測とを合わせた話し合い活動が適当。

○「①問題の把握—②場面分析—③仮説設定—④検証—⑤適用」の5段階学習過程を基本に、まず、①課題を自分のこととして意識し、②提示された問題場面について危険を予測する（状況把握、潜在危険の発見と事故予測）。次に、③どうすれば危険を回避し、安全に過ごせるかを考え、④自分の考えた安全行動の適性を確かめる。そして、⑤めあてを決め実生活に活かす過程をとる。
○検証の段階では、警察署員・交通指導員等をゲストティーチャーに招き、専門的な立場からの助言・指導をもらえるようにしたい。児童の行動選択の検証はもとより、知識面の指導・技能面の指導も効果的に展開できる。
○特に高学年段階では、自分が事故に遭ってしまったら周囲の人間がどれだけ悲しい思いをするのか、他人にけがを負わせてしまったらどうなのか、自尊感情や他者尊重の気持ちに働きかける活動を同時に展開することが有効な手立てになる
○低学年～中学生は、自転車の運転技能がまだ未熟な段階である。学習過程を3段階程度にし「①問題の把握—②場面分析—③適用」、60分展開にするなどの工夫を加えて、実際に体を動かし運転技能を高める学習活動に十分な時間を取りたい。
○家庭・地域と連携していく上で、学校公開日などに授業を実践していくことが効果的である。

[指導者向け交通安全教室指導例] ~ 安全点検編 ~ 時間：1時間

行事名 「親子交通安全教室(自転車安全点検)」(小学校低～中学年)			
ねらい	自転車の選び方や点検の仕方など、正しい知識や技能を身につけさせ、安全に自転車に乗れるようにするとともに、親子で参加することにより、家庭や地域に安全な自転車の乗り方を啓発する。		
	活動内容	指導上の留意点	
事前指導	交通安全教室に親子で参加するよう呼びかける。	子ども用の自転車、大人用の自転車を用意しておくよう呼びかけ、安全な自転車の乗り方についての意識を高めさせておく。	
	活動内容	指導上の留意点	児童・保護者の動き
本時	<p>体に合った自転車を選ぶ。 (自転車の乗車姿勢) ・サドル、ハンドルの調整</p> <p>乗車前の点検の仕方を知る。 ・チェーン ・ペダル ・ベル ・ライト ・ハンドル ・反射器や反射材</p>	<p>警察署や交通安全協会の方に指導をお願いする。 活動は親子で一緒に行わせる。 実際に自転車に乗らせ、両足先が着くか、ブレーキレバーが握れるか、ハンドル操作ができるか、親子で確認させる。</p>  <p>体に合わない自転車は危険であることを体験させる。</p> <p>点検の手順についての話を聞かせる。 自転車点検チェックカードを活用する。</p>	<p>体に合った自転車を選ぶ。</p> <p>点検の手順を覚える</p>
	 <p>ブレーキの点検</p> <p>ブレーキの効きは、ブレーキを握った時にハンドルまでの3分の1程度で十分締まること。 タイヤの空気圧は、サドルに乗ったときタイヤの路面接地部の長さが6～10cm程度となること。 チェーンは緩みすぎでないこと。 ペダルの心棒が腐食していたり、曲がっていたりしていないこと。 ライト、ベル、反射器、反射材が装備され、その性能が十分発揮されていること。</p>  <p>タイヤの点検</p> <p>タイヤには、空気が十分入っているかどうかを調べる。 タイヤは、乗ったとき接地面の長さが、7センチメートルくらいが適当</p>	<p>ブレーキの点検</p>  <p>「ブレーキ」を握ったとき、力いっぱい握っても、前後の動きが止まらなければ点検</p>  <p>「ブレーキ」を握ったとき、ペダルを動かさずに前後の動きが止まらなければ点検</p> <p>警音器の点検(ベルやブザー)</p>  <p>警音器がよく鳴るかどうかを調べる。 音の強弱によって作動しない場合は、修理をしてください。</p>	<p>実際に自転車を使って点検させる。 点検し、体に合った自転車に乗らせる。 学んだことを親子で実践するように伝える。</p>
まとめをする			
事後指導	自分の自転車が体に合っているか親子で確認させ、乗車前の点検を必ず行うよう指導する。	学校生活の中で適宜指導するとともに、車に乗れるよう、保護者会などで啓発	家庭でも安全に自転車を乗る。
評価	体に合った自転車を選ぶことができたか。 自転車の点検の仕方を理解し、正しく点検ができたか。		

[指導者向け自転車指導マニュアル] ～実技編～ 時間：2時間

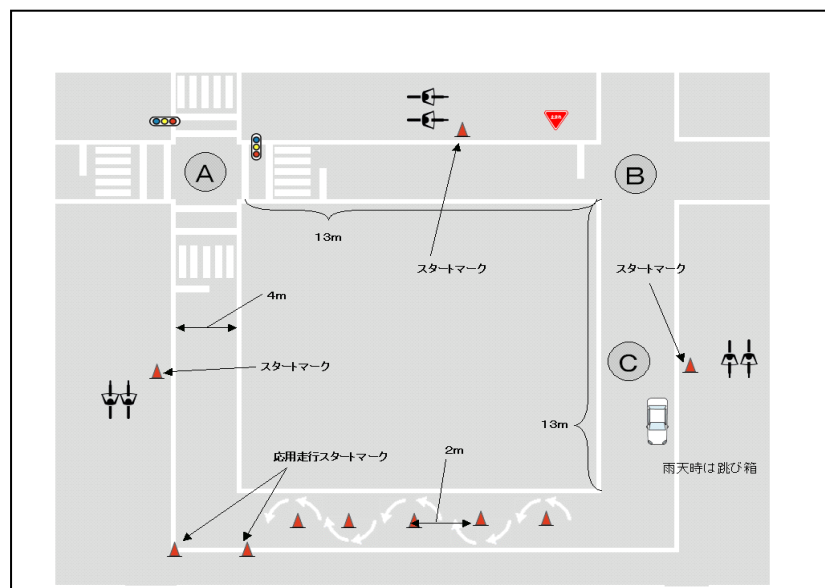
設定

- 参加数：児童60～80名
 場所：小学校グラウンド
 指導者：6～12名
 準備物：自転車、ヘルメット、拡声器、メジャー、模擬信号機、一時停止標識
 パイロン、ゼッケン等
 内容：下図参照

時間	項目	Aコート			Bコート			
		ゼッケン			ゼッケン			
		赤	黄	青	赤	黄	青	
9:00～9:30	30	受付						受付・ゼッケン着用
9:30～9:35	5	開会・説明						開会・説明
9:35～9:45	10							班編成
9:45～10:00	15	基本指導						安全点検・乗車姿勢
10:00～10:15	15	基本走行						A B C A B C
10:15～10:25	10	休憩						
10:25～10:40	15	基本走行						B C A B C A
10:40～10:55	15	基本走行						C A B C A B
10:55～11:25	30	応用走行						おさらい走行・パイロンスラローム
11:25～11:30	5	まとめ						おやくそく

A = 「信号機のある交差点の右折」
 B = 「信号機のない交差点の右折」
 C = 「駐停車車両の側方走行」

コース図：下図コースを2面設定

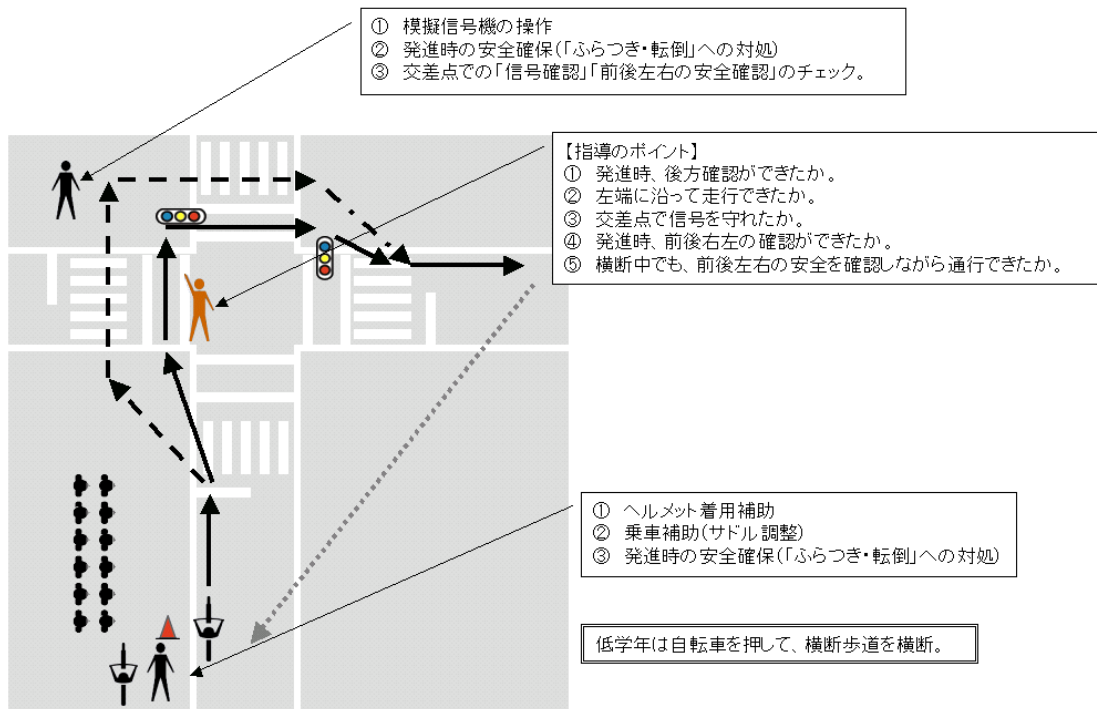


A（信号機のある交差点の右折） 《15分》

指導のねらい	信号機のある交差点で2段階右折を行わず、安全確認も不十分のまま右折をしている児童がしばしば見受けられる。ここでは信号機のある交差点での右折の方法を、実技を通して身に付けさせ、交差点での事故防止を図る。
学習内容	① 信号機のある交差点の右折(2段階右折)方法を身に付けさせる。 ② 安全に通行するための心構えや安全確認の仕方を身に付けさせる。
準備	模擬信号機2基、自転車2～3台、パイロン、(雨天の場合は自転車横断帯マット)

内 容	留 意 点
(1) 「挨拶」と「自己紹介」 (2) 「学習のねらい」の説明 と 注意事項 (3) 場面設定の説明 (4) 指導者による説明 → 模範走行(正しい右折の仕方) ① ブレーキを握って、後方を確認し、自転車に左側から乗車する。 ② 後方の安全を確かめてから発進する。 ③ 信号を確認する。 ④ 赤信号では、横断歩道手前の停止線で停止する。その際、後方の安全を確認してから停止する。 ⑤ 信号が青になるのを待つ間、他の車両の動きに注意して安全確認する。 ⑥ 青信号に従って、前後左右の安全を確認しながら、自転車横断帯を徐行し、横断する。 《低学年》 青信号に従って、前後左右の安全を確認しながら、横断歩道を自転車押して、歩いて横断する。 ⑦ 横断中でも、他の車が来ないか、前後左右の安全を確認しながら横断する。 ⑧ 前方の交差点角の手前で、安全を確かめてから停止する。 ⑨ 左折する車両がある場合は先に左折させる。 ⑩ 後方の安全確認した後、自転車から降りて、自転車を停止線まで移動させ、右折する方向の信号が青になるのを待つ。 《低学年》 横断歩道を横断し終わったら、歩道上で、右折する方向の信号が青になるのを待つ。 ⑪ 青信号になったら、前後左右の安全を確認して発進する。 《低学年》 青信号になったら、前後左右の安全を確認して横断歩道上を歩いて横断する。 ⑫ 横断中でも、他の車が来ないか、前後左右の安全を確認しながら横断する。 ⑬ 停止する位置で、後方の安全確認をして、道路左端に停止して、自転車の左側から降りる。 (5) 参加者全員で正しい右折の実技を行う。	○ 挨拶は大きな声で元気よく。明るい雰囲気で。 ○ 平易な言葉で簡潔に。 ○ 説明には、日頃のヒヤリ体験を引用するなどして、具体的な話をする。 《 実技体験での注意点 》 ○ 常に安全走行に気をつけさせる。 ○ 自転車のふらつきがある場合には、注意しながら走行させる。 ○ 後方の安全確認が形だけにならないように、後方の安全確認で何が「見えたか」を確認してみるとよい。 ○ 停止線で確実に停止させる。 ○ 交差点では徐行すること、右左折車の車両の有無に注意すること、歩行者の保護が必要であることに触れる。 《 年齢差に関する指導方法の違い 》 ○ 1～3年生は安全のために自転車を押して横断歩道を横断する。 ○ 4～6年生自転車横断帯を乗って渡る。

A 信号機のある交差点の右折（指導のポイントと役割）

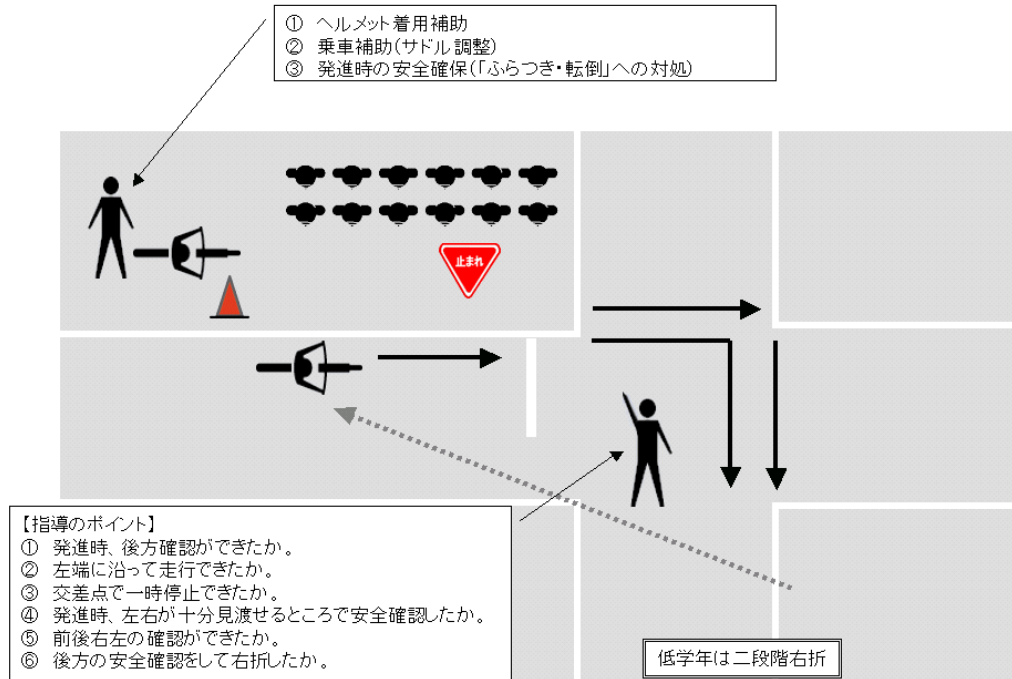


B（信号機のない交差点の右折） 《15分》

指導のねらい	自転車乗用中の事故の多くは、信号機のない交差点での安全不確認や一時不停止による出会い頭事故である。 ここでは、信号機のない交差点での正しい右折方法や安全確認の仕方を理解させ、実践させることによって、交差点での事故防止を図る。
学習の内容	① 信号機のない交差点の右折方法を身に付けさせる。 ② 安全に通行するための心構えや安全確認の仕方を身に付けさせる。
準備	一時停止標識1基、自転車2～3台、パイロン

内 容	留 意 点
(1) 「挨拶」と「自己紹介」 (2) 「学習のねらい」の説明と注意事項 (3) 場面設定の説明 (4) 指導者による説明 → 模範走行(正しい右折の仕方) ① ブレーキを握って、後方を確認し、自転車に左側から乗車する。 ② 後方の安全を確かめてから発進する。 ③ 交差点の手前で、後方の安全を確認し、道路の左端に寄って、停止線で一時停止する。 《低学年》 交差点の手前で、後方の安全を確認し、道路の左端によって、停止線で停止し、自転車に左側から降りる。 ④ 左右が見渡せる位置で、前後左右の安全を十分に確認して発進する。 ⑤ 徐行しながら、交差点の向こう側まで進む。 ⑥ 前後左右の安全を確認しながら、交差点の端に沿って右折する。この時車の接近に伴う危険や歩行者の保護に十分注意する。 《低学年》 (2段階右折) 交差点の向こう側で、後方を確認し、一時停止する。右折する方向に向きを変え、左右が見渡せる位置で、前後左右の安全を十分に確認して発進する。 ⑦ 停止する位置で、後方の安全確認をして、道路左端に停止して、自転車の左側から降りる。 (5) 参加者全員で正しい右折の実技を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶は大きな声で元気よく、明るい雰囲気です。 ○ 平易な言葉で簡潔に。 ○ 説明には、日頃のヒヤリ体験を引用するなどして、具体的な話をする。 《 実技体験での注意点 》 <ul style="list-style-type: none"> ○ 常に安全走行に気をつけさせる。 ○ 自転車のふらつきがある場合には、注意しながら走行させる。 ○ 後方の安全確認が形だけにならないように、後方の安全確認で何が見えたかを確認してみるとよい。 ○ 停止線で確実に停止させる。 ○ 交差点では徐行すること、右左折車の車両の有無に注意すること、歩行者の保護が必要であることに触れる。 ○ 信号機のない交差点では、交差点に入る手前で標識・標示の有無にかかわらず一時停止をして安全確認することが、特に重要であることを強調する。 ○ 交差点の中心あたりを通る小回り右折は、違反であるとともに、安全確認がしづらく、たいへん危険であることに気付かせる。 ○ 信号機のある交差点と異なり走行しながら交差点内で右折できるが、直進車や左折車などの車両の接近の危険が感じられる時には、一時停止して安全な状態になってから再び走行を続けさせるようにする。 《 年齢差に関する指導方法の違い 》 <ul style="list-style-type: none"> ○ 1～3年生は2段階右折。 ○ 4～6年生は徐行しながら交差点の端に沿って曲がる。

B 信号機のない交差点の右折（指導のポイントと役割）



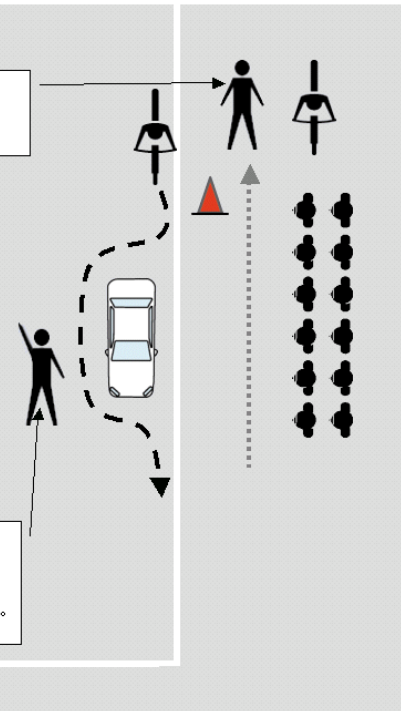
C (駐停車車両の側方通行) 《15分》

指導のねらい	駐停車車両の側方を通行する際、安全確認が不十分になりがちであるため、事故の危険性が高くなる。 ここでは、駐停車車両の側方通行の実技体験を通して安全確認の重要性を理解させ、実践させることによって、駐停車車両の側方通行時の事故防止を図る。
学習の内容	① 正しい駐停車車両の側方通行の方法を身に付けさせる。 ② 安全に通行するための心構えや安全確認の仕方を身に付けさせる。 ③ 自転車が通行できない路側帯があることを理解させる。
準備	駐停車車両1台、自転車2～3台、パイロン

内 容	留 意 点
(1) 「挨拶」と「自己紹介」 (2) 「学習のねらい」の説明 と 注意事項 (3) 場面設定の説明 (4) 指導者による説明 → 模範走行(正しい通行の仕方) ① 自転車は道路左端を走行しなければならない。 ② ブレーキを握って、後方を確認し、自転車に左側から乗車する。 ③ 後方の安全を確かめてから発進する。 ④ 駐停車車両の手前で後方の安全確認をして一時停止・降車し、道路左端の走行が可能かどうか、再度確認する。 ⑤ 通行できなければ、道路の中央にはみ出して、駐停車車両の右側方を通行するので、その車両の前方と後方の安全確認を十分にする。 ⑥ 接近してくる車がなく、安全であれば注意しながら、駐停車の右側方を自転車を押しながら歩いて通行する。 ⑦ この時に、車のドアが急に開いたり、駐停車車両が急発進することもあるので、十分に注意する。また、車の陰からの歩行者等の飛び出しにも注意する。 ⑧ 側方通行が終わったら、速やかに道路左端に戻る。 (5) 参加者全員で正しい駐停車車両の側方通行の実技を行う。	○ 挨拶は大きな声で元気よく、明るい雰囲気で。 ○ 平易な言葉で簡潔に。 ○ 説明には、日頃のヒヤリ体験を引用するなどして、具体的な話をする。 《 実技体験での注意点 》 ○ 常に安全走行に気をつける。 ○ 自転車のふらつきがある場合には、注意しながら走行させる。 ○ 後方の安全確認が形だけにならないように、後方の安全確認で何が見えたかを確認してみるとよい。 ○ 徐行とは「車両等が直ちに停止することができるような速度で進行すること」をいう。 ○ 1～6年生まで自転車を降りて、自転車を押して車の横を通り抜ける。 ※ 今回、わかりやすくするため、「路側帯のない道路」という設定で行う。

C 駐停車車両の側方通行 (指導のポイントと役割)

- ① ヘルメット着用補助
- ② 乗車補助(サドル調整)
- ③ 発進時の安全確保(「ふらつき・転倒」への対処)



- 【指導のポイント】
- ① 発進時、後方確認ができたか。
 - ② 左端に沿って走行できたか。
 - ③ 側方通行する前に、車両の前後が見渡せるところで、十分な安全確認をしたか。
 - ④ 側方通行が終了したら、速やかに左端に戻れたか。

駐停車車両横を自転車を押して通行。

今回の開催にあたっての留意点など

【 指導上の基本事項 】

1. 指導にあたっては、児童がわかりやすいように、できるだけ平易な用語を用いて説明する。
2. 児童と接する場合は、挨拶など大きな声で元気よく行い、明るい雰囲気で接するように努める。
3. 時には、日頃の行動を振り返らせるなどして、できるだけ具体的に理解できるようにする。
4. 今回は安全確保等の理由で、右折・左折・停止等を行う「手信号」は省く。交通行動を起こす際の安全確認を十分に指導し、その重要性に気付かせ理解させるようにする。
5. 児童には、可能な限り「体験ができる」ようにスタッフがお互い協力し合うようにする。

【 指導中の安全確保 】

1. コースの設営・撤収は参加者が会場にいる間は絶対に行わない（特に車両の移動）。
2. 指導補助を担当する者は、児童が指導に集中できるように努め、勝手な行動をさせないようにする。
3. 児童が体験走行する場合は、必ず自転車用ヘルメットを着用することとし、指導補助者が正しい着用の手助けを行う。
4. 走行中の危険を防止するため、指導補助者は、児童の体格に合わせた自転車のサイズを選び、サドルの調整を行い、児童に乗車させるようにする。
5. 走行を終えスタート地点に戻る際に、待っている児童と衝突しないように注意する。

【 実施上の留意点 】

1. 指導者・補助者等のスタッフは積極的に声をかけるなど、常に参加者の健康状態に留意するよう努める。
2. スタッフは担当エリアはもとより、会場全体へも配慮する。必要に応じて他のエリアも補うようにする。
3. 「安全管理」、「時間管理」に配慮しながらスムーズな実施を心掛ける。

4. 今後の事業展開について

4. 今後の事業展開について

◆ 本年度の事業実績をふまえた今後の事業展開

「児童、教師、家庭の意識を高める」ための教材の活用

本年度作成した教材を活用して、教師・家庭が相互に連携し、指導としつけの一貫性を持たせながら、子どもの交通安全意識の定着化と正しい交通行動の習慣化を目指す

地域における指導者の養成と指導力の一層の充実

交通安全教室や指導者研修会等を引き続き実施し、地域における指導者としての資質の向上と一層の充実を目指す

本年度実施地域の継続と周辺地域への拡大

同じ地域で事業を継続して推進することにより、地域における交通安全意識の一層の定着化を目指す。さらにその周辺地域の理解と協力を得ながら活動範囲を広げる。

小学校低学年の児童・保護者へのアンケートの実施

小学校入学前からの自転車乗用の実態や自転車購入時からの保護者の意識向上等の必要性から、低学年児童および保護者を対象にアンケートを実施

資料

問9. 雨の日には、どのようにして自転車に乗りますか。1つ選んで○をつけてください

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. カップを着て乗る | 2. カサをさして乗る | 3. 何も使わないで乗る |
| 4. 雨の日は乗らない | | |

問10. ブレーキをかけるときはどちらを先につかいますか

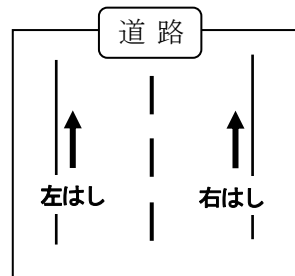
- | | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 右ブレーキ (前のタイヤ) | 2. 左ブレーキ (後ろのタイヤ) | 3. 右と左いっしょ |
|------------------|-------------------|------------|

問11. あなたが自転車に乗っていて、安全をたしかめるのはどんな時ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1. 発進や停止をする時 | 2. 右や左に曲がる時 | 3. 交差点を通るとき |
|--------------|-------------|-------------|

問12. あなたは自転車に乗るとき、道路のどこを走りますか。下の図を見て答えてください

- | | |
|--------|--------|
| 1. 左はし | 2. 右はし |
|--------|--------|



問13. あなたは今まで自転車に乗っていて、何かにぶつかりそうになった (ヒヤッとした) ことはありますか

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問13で「1. ある」に○をつけた人に聞きます

問13-1. ぶつかりそうになった (ヒヤッとした) 相手は次の中でどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください

- | | | |
|-----------|------------|--------|
| 1. 歩いている人 | 2. 自転車 | 3. バイク |
| 4. 車 | 5. その他 () | |

問13-2. ぶつかりそうになった (ヒヤッとした) 時は、あなたがどんな時でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1. 遊びに行くとき | 2. 買い物に行くとき |
| 3. スポーツクラブの練習や習いごとへ行くとき | |
| 4. その他 () | |

問13-3. ぶつかりそうになった (ヒヤッとした) 場所はどんな所ですか
(くわしく書いてください)

--

問 14. あなたは今までに自転車に乗っていて、何かにぶつかったことはありますか

1. ある 2. ない

問 14 で「1. ある」に○をつけた人に聞きます。

問 14-1. ぶつかった（ヒヤッとした）相手は次の中でどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください

1. 歩いている人 2. 自転車 3. バイク
4. 車 5. その他（ ）

問 14-2. ぶつかった（ヒヤッとした）時は、あなたがどんな時でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください

1. 遊びに行くとき 2. 買い物に行くとき
3. スポーツクラブの練習や習いごとへ行くとき
4. その他（ ）

問 14-3. ぶつかった場所はどんな所ですか
（くわしく書いてください）

問 15. あなたは今まで、道路での自転車の乗り方を教えてもらったことがありますか

1. ある 2. ない

問 15 で「1. ある」に○をつけた人に聞きます

問 15-1. だれに教えてもらいましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください

(※1)交通しどういん… みなさんの学校にきて交通安全のお話をしてくれる人たちです

1. 親 2. (※1)交通しどういん 3. 学校の先生
4. その他（ ）

問 15-2. 何を教えてもらいましたか
（くわしく書いてください）

問 16. あなたが自転車で出かけるとき、家の人にはいつもどんなことを言われますか。あてはまるものすべてに○をつけてください

1. 早く帰ってきなさい 2. 事に気を付けて 3. 車に気を付けて
4. スピードを出さないように 5. しん号を守るように 6. 人にぶつからないように
7. 暗くなったらライトをつけるように 8. 何も言わない
9. その他（ ）

アンケートはいじょうです。ありがとうございました。

問3-3. 相手

(例：交差点を左折した車、正面からきた自転車 など)

問3-4. 原因

(例：運転手の脇見、相手の前方不注意 など)

問4. あなたは自転車が自動車と同じ車両であることを知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らなかった

問5. あなたは、自転車の保険に加入していますか。

1. 入っている 2. 入っていない

問6. あなたの自転車には反射材がついていますか

1. ついている 2. ついていない

問7. あなたが自転車に乗る時、日ごろどんなことに気をつけていますか。

問8. 自転車が歩道を走行できるのは、下記標識がある場所のみであることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らなかった



標識：普通自転車が歩道を通行できることの指定

問9. 次の中で自転車が刑罰の対象（道路交通法等）になると思うもの全てに○をつけてください。

- | | | |
|------------------|-----------|----------------|
| 1. 全て刑罰の対象にならない | 2. 右側通行 | 3. 二人乗り |
| 4. カサさし運転 | 5. 夜間の無灯火 | 6. 携帯電話をしながら走る |
| 7. 並進走行（2台並んで走る） | 8. 赤信号の無視 | 9. 一時不停止 |

問10. 雨天時についてお聞きします。通常、お子さんが自転車で外出する時はどのようにしていますか。あてはまる全てに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|-----------------|-----------|
| 1. カップを着用させる | 2. カサを使わせる | 3. 車で送迎する |
| 4. 歩かせる | 5. 何も使わせないで乗らせる | |
| 6. その他（ | | ） |

問 11. お子さんへの自転車指導についてお聞きします。自転車指導は主として誰がすべきだと思いますか。
1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 主として学校がすべき | 2. 主として家庭ですべき |
| 3. 学校と家庭が連携してすべき | 4. 指導する程の事はない（する必要はない） |
| 5. その他（ | ） |

問 12. お子さんへの自転車指導について、日ごろからあなたが話している（教えている）事がありましたらご記入ください。

問 13. お子さんへの自転車指導について意見、要望等がありましたらご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました

自転車対策の課題

自転車の関連する事故の増加 (対自動車事故・対歩行者事故ともに増加)
自転車利用者が無秩序に歩道を通行 (法規範と実態の乖離)

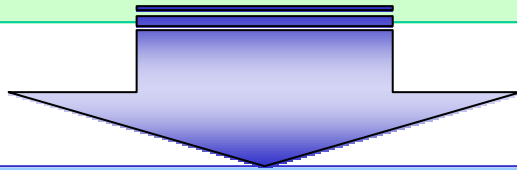


自転車の交通秩序の回復が必要

自転車の通行ルールに係る制度改正

(守ることのできる、守らせることのできるルールに)

車道通行の原則を維持しつつ、歩道通行できる要件を見直し
(道路交通法の改正)
より具体的なルールについて、交通の方法に関する教則に明示



自転車の安全利用促進のための総合的対策の推進

自転車の通行に関するルールの周知とルール遵守の徹底

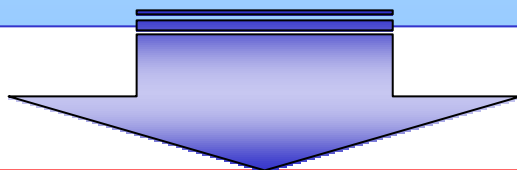
自転車のルールに関する広報啓発と自転車安全教育

自転車に対する街頭指導と悪質・危険な違反に対する取締り

自転車の通行環境 (車道・歩道) の整備

並行して実施

関係省庁と連携



自転車に関する交通秩序の整序化

自転車の通行ルールに係る制度改正

自転車の通行ルールについて制度改正が必要な理由

自転車の通行空間の在り方

自転車道に一本化することが望ましい

自転車道が設けられていない道路では、自転車利用の多様性や道路事情を考慮すると、車道と歩道の両方に通行空間を確保すべき（**車道が原則、歩道は例外**）

自転車利用者の守ることのできるルールの設定

- * 道路標識等による規制では画一的にならざるを得ず、時間帯や状況に応じた対応は困難
- * 現在のルールでは、利用者によっては守ることができず、遵守の徹底を図ることが困難

法改正を検討している内容

自転車の歩道通行要件の見直し

道路標識等により通行可とされている場合のほか、

- * 児童・幼児等が運転する場合
- * 危険を回避するためやむを得ない状況である場合に限り自転車の歩道通行を認める

歩道通行する自転車に対する警察官の指示処分の新設

自転車に対する街頭指導の強化のための規定の整備

警察とボランティアが連携して自転車に関する街頭活動を強化するため、地域交通安全活動推進委員の活動内容に追加

児童・幼児のヘルメット着用に係る規定の新設

児童・幼児が自転車に乗車する場合に、保護者に対し、児童・幼児に乗車用ヘルメットを着用させるよう努める義務を新設

自転車の通行環境の整備イメージ

通行環境整備の進め方

自転車の通行環境の点検



モデル路線(地域)を指定するなどにより計画的に通行環境(車道・歩道)を整備

* 自転車通行環境整備計画(仮称)の策定



車道における通行環境の整備状況に応じ、警察と自治体等が連携し広報啓発・指導

通行環境整備の例

車線を見直し、車道の左側端に自転車レーンを設置

幅員の広い歩道の自転車通行指定部分を物理的分離

車道の自転車レーン部分や歩道の自転車通行指定部分をカラー舗装により視覚的分離

車道の環境整備に合わせて、自転車歩道通行可規制の解除等



自転車通行に関するルールの周知とルール遵守の徹底

自転車のルールに関する広報啓発と自転車安全教育

改正法・教則の内容について、チラシ・HP等により広報

小・中・高校生に対して、学校と連携し、通行ルールや事故防止に関する安全教育を徹底

運転免許保有者に対して、更新時講習等において、自転車の通行ルール、車道を通行する自転車に対しての留意事項等について周知

小学生等の保護者、高齢者等に対して、自転車教室を積極的に実施



自転車に対する街頭指導と悪質・危険な違反に対する取締り

部内教養を徹底し、警察官の日常活動の中で、自転車利用者への街頭指導を積極的に実施

地域交通安全活動推進委員や市町村委嘱の交通指導員等のボランティアと連携した街頭指導を推進

悪質・危険な違反に対する指導取締りを引き続き強化

(歩道で歩行者に危険を生じさせる暴走行為等について警告・検挙)

